

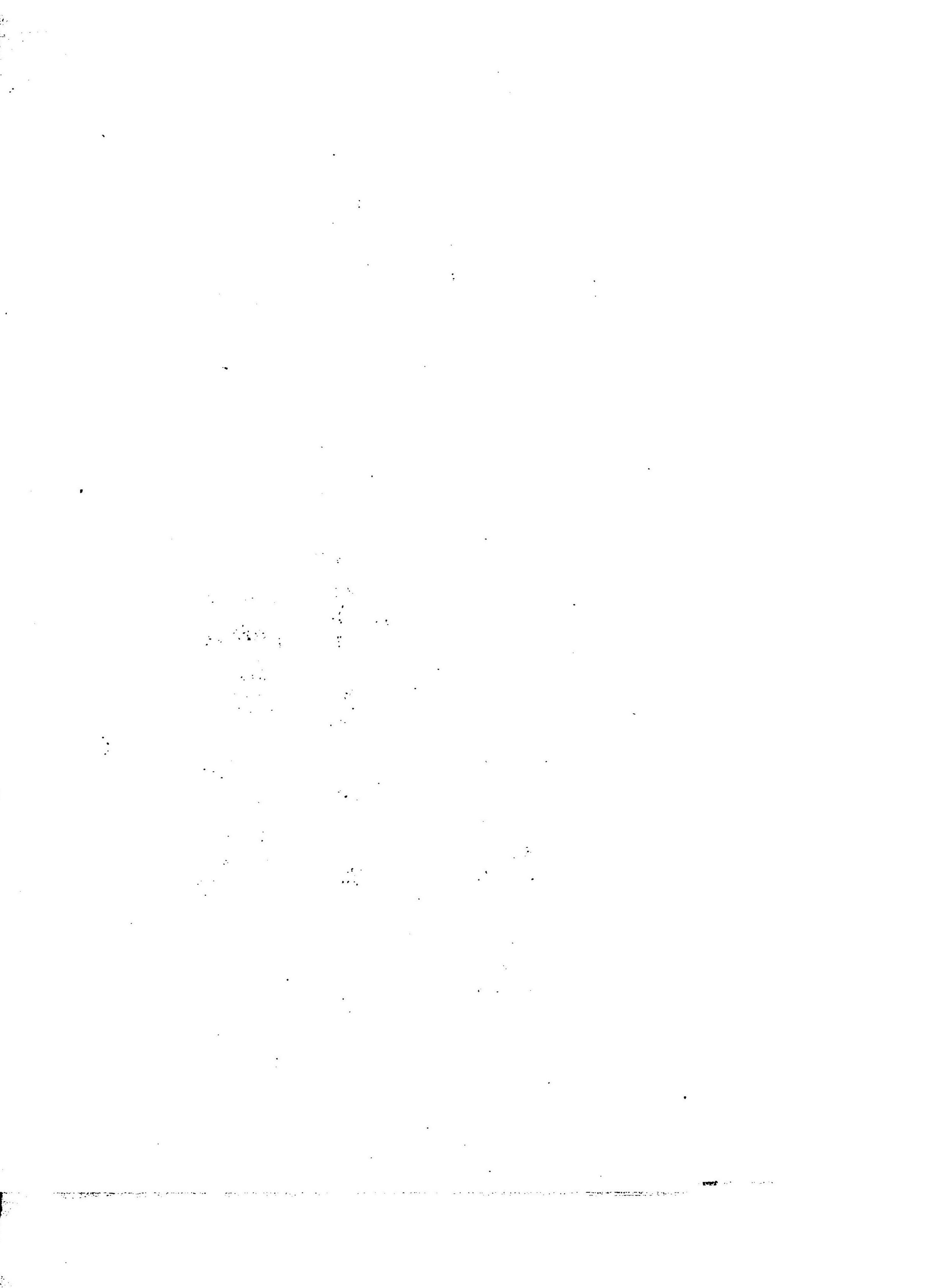
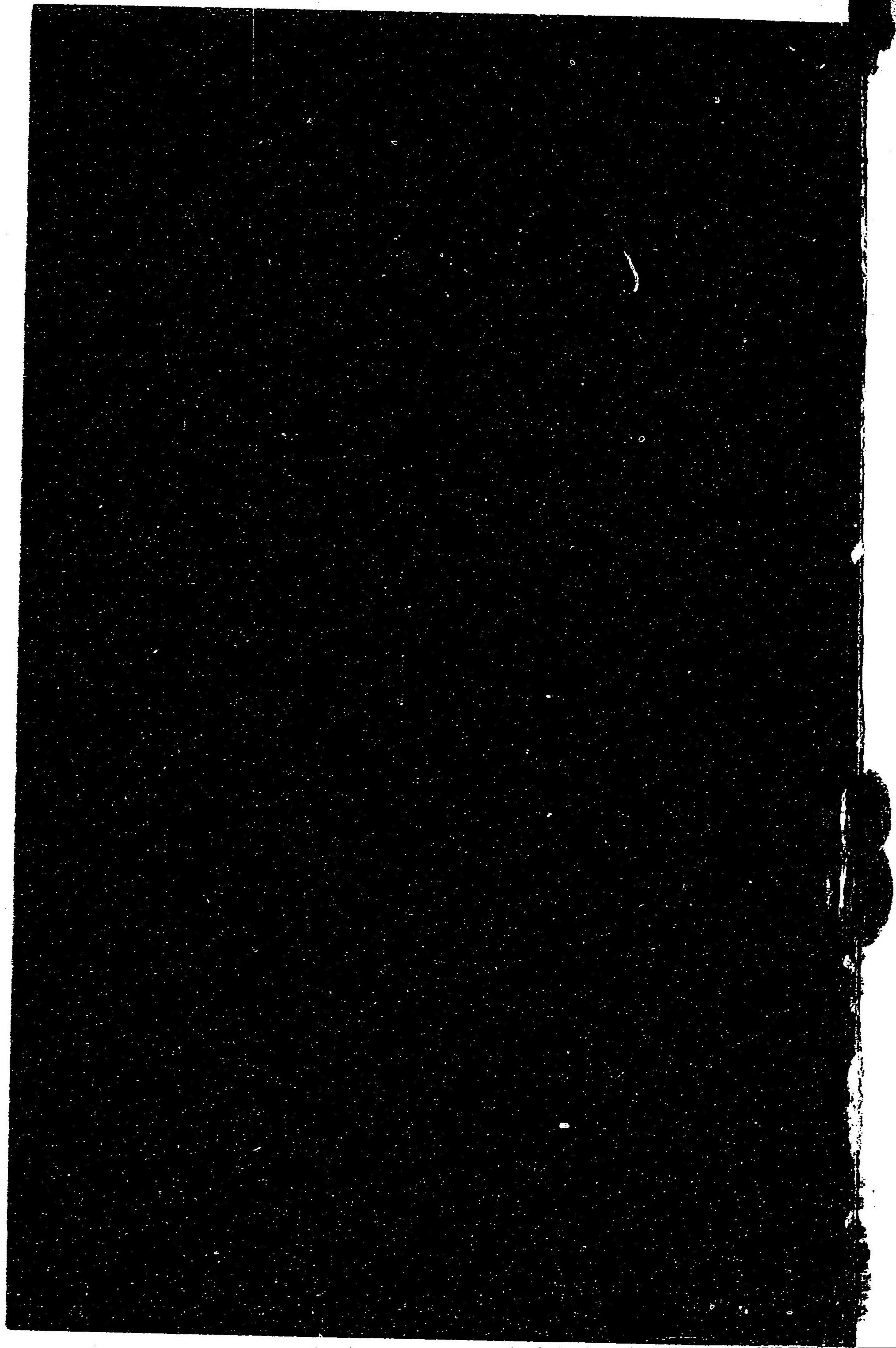
166
8119

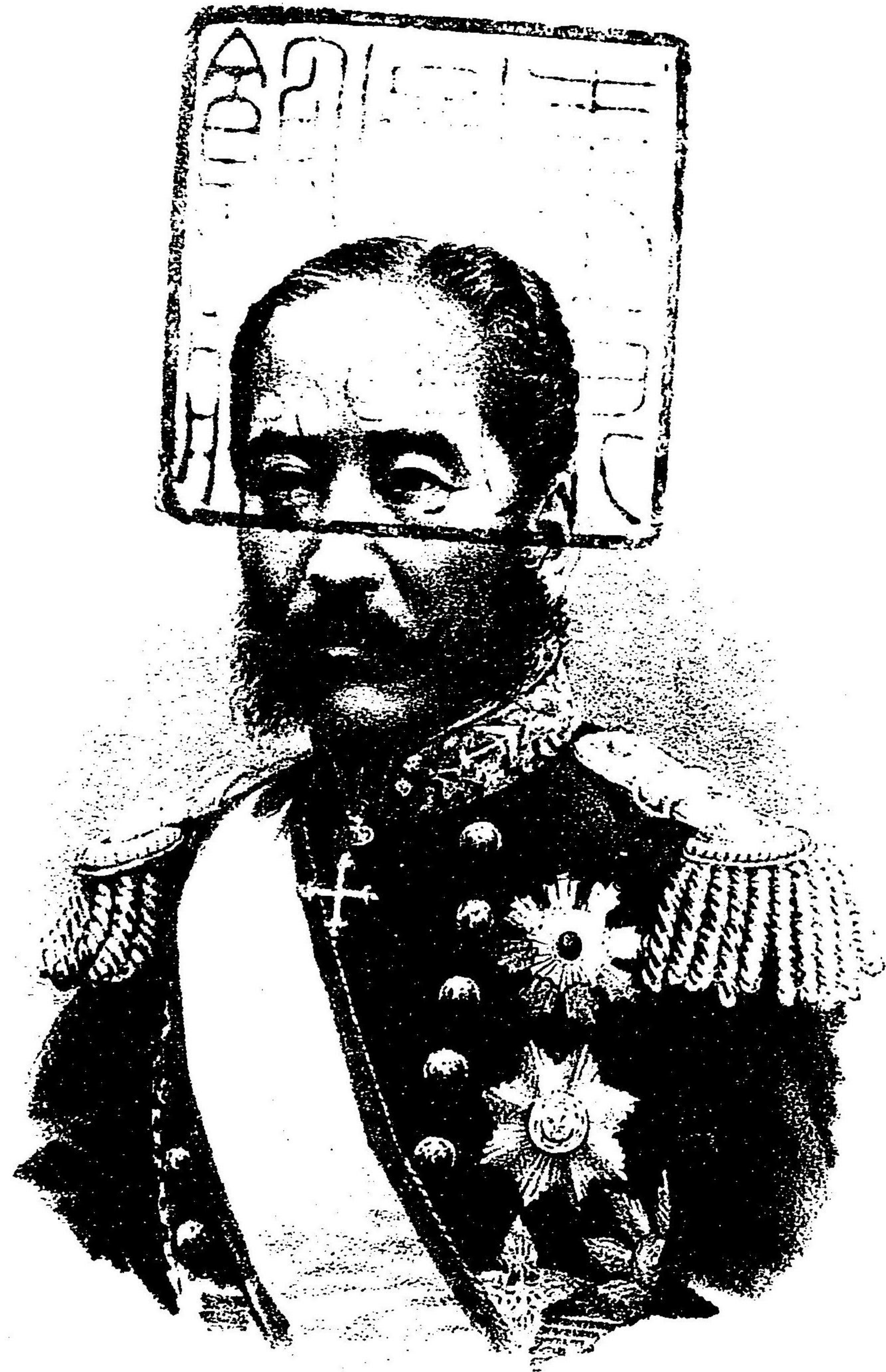
式讀醒夢

石井忠治君序
榎本賢次郎著

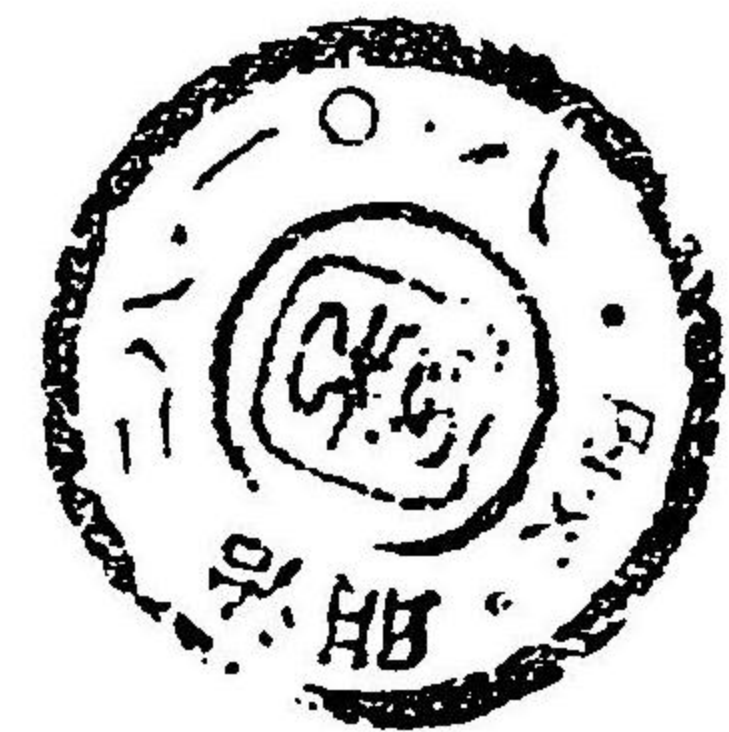
實驗
應用
相場博士

發行所
新彩館





農商大臣榎本之子肖像



實驗應用 相場博士序

相場の了し難きこと猶真如の如きる真如ハ聖人と
雖も能く説くへうらす是則古來相場上も関せず
良書をなき所以なり然りと雖も至難の業たるの
故有以て徒らう之を不問ふ付さんり愚者と雖も
其不可なるを知ら況や俊傑の士ふして之を不問
ふ付さんり理あらんや吾友榎本君其業を研究せり
こと十年一日の如くせよ所以なり而して一旦恍
然として得る所あり因て偏く公衆に示さんと欲
し二小冊を著せり名けて實驗應用相場博士と云

ふ斯業に從事する者此書と熟讀せし何人と雖も
相場博士となり得べし夫然り然りと雖も真如
の聖人も能く説く能はざる如く相場の事亦然
り蓋し相場の事たる何人と雖も能く説くべし
やと雖も豈知了る事と得たりんや即以心傳
心の術の故に一意専心以て相場の活機に通
ること力えよ果して相場の活機に通ること
を得ば則ち巨万の富唯求ふ隨て得ん此書は即其指
南なり乃之を書して序言と為す

明治二十九年九月中旬

石井生識

緒言

一古今期月米賣買の関する史籍坊間も流布する
の數は擧て數ふべからざるに至る然れども多
く陰陽五行支干二十八宿等の易理曆道等も依り
妄説を以て繁雜に涉り或は卜占の如き先見の豫
言が列ね或は學理の論義を以て説き一として讀
者を迷はしめたり余慷慨に堪へざるな
り夫の先出の著書なるもの孰も經濟學の著
明なり博士の卓説妙論なりけれども決して斯
道の人をして満足せしむべきにあらず却て虎穴

不陥らむとの感あり仍て茲に著述もこの相
場博士の期月米賣買の志も所の人々も其原則た
り相場は活物ふして凡人の先見し得べきふあら
ぶると氣車往復の如く何時も甲の線路を通し何
時ふ乙の線路を通せると云ふ如きものふあ
らさるの理を悟らしめ虎穴に陥らしめざる要
もこの以て主眼とせり

一書中相場賣買の手段方法を解らば唯々古歌の
金言の如く掲載し餘は著者は是まで多少艱難辛
苦の實驗を徴して咄々所感を論し巻尾に全國取

引所概部の真景を挿むこととせり讀者請ふ之を
諒して文章の拙劣を答むる勿れ

明治二十八年九月

著者誌

實驗相場博士目次

通則

第一章 總論

第二章 期月米商人の迷ふべからざる事

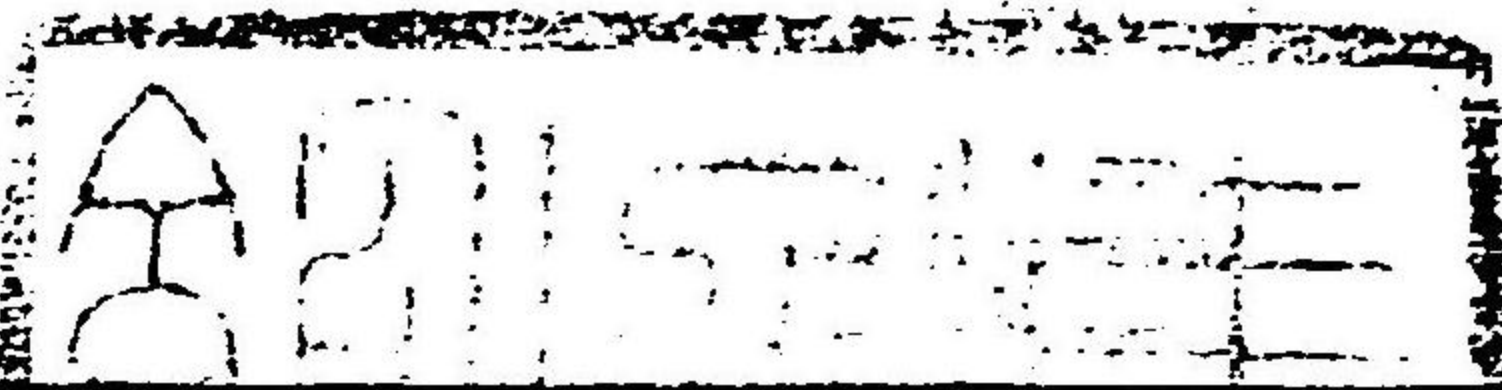
第三章 期月米商人の膽力と資力を要する事

第四章 期月米賣買に従事する人の注意すべき事

第五章 期月米商と普通商との差異

附

全國取引所概部の眞景



實験
應用
相場博士

第一章 總論

榎本賢次郎著

天下の商業多きこと其幾千百種なり哉ハ容易ノ
 数より能ハズ其中國益民福の計故以て為キある
 或ハ一家一己の利慾を以てするあり恐らくハ十
 中の十自家を富すの計畫なりハ論ハ俟たずして
 明々あり是れ素より止むを得ざる小出づりの情
 なり鬼ノ角自分分の財足り日々の生計ハ苦志
 まざるの以上小あらざれば豈國利民福ヲ顧慮ス

二
予の餘暇あらんや果して然らば利慾心なるもの
ハ人類特有の天賦にして乃ち十円の貨幣ハ百円
小百円ハ千円万円ふも積上げたまき心無きハなし
其の十円を百円千円万円ふも為さず神速敏捷
して今日の時世ハ適當ハ最も活潑なる文明人の
營むべき商業ハ期月米賣買なり何と云れば一万
円の資本を要さばことハ一千円乃至二千円ふ
て為し實貨現品ハ代るハ手形切符ハ以て一大取
引を為さば如きは便利極まるものなれば商人た
る者ハ先づ期月米賣買ハ着手さべし世間往々該

業ハ營む者を賭博なり非真業なり杯と謗ハ輩も
ありしなれども今日とありて全國到る所ハ取引
所の公許ある豈偶然ならんや文明の一大利器な
れハあり然らば則ち期月米賣買ハ從事するハ決
して耻づべきハあらざる正業なり實業なりと信
認して毫も憚る事なく自ら賭博類似杯と卑屈な
る心を發して其地位ハ低らざる勿き之れ期
月米賣買ハ着手するハ臨みて第一ハ能くハ心
得置くべき事なり

○第二章 期月米商人ハ迷ふべからざる事

前章論ト來りし當てハ期月米賣買の仕法ヲ説き
失敗の憂ヒナリしめんとせりハ古來米商上関
す著書の常とせり所ナレども大くハ陰陽五行
等の易理上依り或ハ千百人中偶然僥倖を得たる
者の例證ヲ引き或ハ曆道を以て種々論ぜりあ
れども著者ハ決して然らざる者と信認せ昔時ハ
戊己ハ斯くありしハ專上も節變りしも斯く
ありたりと云ふが如き中せしハ將た何れのもの
のしや免上角余ハ斯の如き大負傷の基となす生
兵法ハ云ハば從前の相場高低の順序ヲ推し將來

ヲ觀察するハ要も之れ則ち目下所謂足取ナリ此
足取なるハ大上高下上關係をて方今の相場ハ
與て力ある事ハ著者ガ實驗ハ徴して明ナリ然れ
ども亦一概ハ拘泥ハ亦妙ナラむ如何とナれば年
の豊凶と賣方買方の顔觸きハ據りて變化常ナリ
ざるが故ナリ仍て此の要領ハ考へざるべから
ざるナリ今や優勝劣敗の社會ハ強きハ弱き
ヲ制し弱きハ強きハ壓せらるハ自然の天理ナ
リ故に當時の賣買大手の人々ハ探索して其人々の
資力と膽力ハ知るべし是等の事を推知するハ夫

の兵法よ所謂彼れな知り己を知らざれば百戦百勝の策なり而して結局の大利益目的とし些細の利を欲せざるべきなり然りと雖も不時の天災事變等小際してハ又一概小賣買者の膽力資力よのミ據らざりて高下されば能く注意して變に應じ機小臨みて所分せざれば徒ら上理屈上束縛せらるゝの恐れあり者故進退は自由よもべし相場ハ死物よあらば宜しく我れ離れて米に之を加へ「迷」ぶるこそ肝要なれ自分持來の為に眞買は付け一方づくハ眞正の機に投むる事難志心決せず

さて妄小賣買は爲す人ハ此期月米に着手して利益を得んと欲するの商業心は忘れたるものと謂はば子べあらざる自分の心よ高下の目的立たざるときハ賣買とも見合まべし然るは譬へ少々たりとも仕掛米なるとハ心淋一杯と云ふハ相場狂人の類よして商人の所爲よあらざる相場を弄すると云ふものなれ殊よ吾ハ弱氣一点張りなりとり強氣一点張りなりとハ誇りて一方づくなりどハ沙汰の限りなれば殊更に注意し斯る事に偏せず癖せざりて迷の一字は放棄するの肝要なりことハ片時寸

刻も必も忘るべからざる。期月米も從事する人の心得べきなり。

の第三章 期月米商人の膽力と資力と

要も事

期月米の商業に従事する人の資力の無るべきからざる。固より勿論なれども相伴して膽力なきか。るべからざる。所謂一旦の敗は敗ともする上足らざれば。あり假令十円以下買ひ附けよる米が九円以下落るとも尚敗と決したるもの。よあらば最終受渡の期上際も。追ふ再び高直の來るを待つべ

まなり又確乎と低落もする目的故以て賣り附けし米が漸々昂騰して大よ見込ふ反對したりとて狼狽して買埋めぬ為し自ら招きて敗滅を取る等の事。其為も。るらび(前章述べたる如く天災事變ハ此限りよありざ)甚ぶるまよ至りてハ僅々拾銭の貳拾銭高下の為めよ狼狽して無暗し方向を轉ぶる者あれども斯く思想定まらざる人の到底勝利を得べからざる。賣買ハ着手以前に豫想を立て置き高低を決断して后よ着手し仕掛けたる以上ハ百折不撓不屈の強膽豪氣故以て斃れて止む迄最初

の一念を動さざれば要き故に膽力ハ相場師の
為めハ資力より必要なること数陪にして何程
巨万の資金あるとも膽力なくして前陳の如く周
章狼狽して賣買なかりば資金ハ忽ち没入して一
厘も残さざれば至るや必せり斯く云ひたりとて
人ハ神おあらざり又聖おあらざれば確乎として動
かまべりうらむと定見せり相場り目的の通り百中
まるとハ無論云ひ難けれハ最初の豫想り真し過
失して上ると見込付けざり相場が下る時俄然
方向が轉じて賣り廻りハ苟も商人の為をばき

十

おあらざると心に背ひて買ひで押通も杯ハ又前章
お述べたる我意の為ハ商業が忘れしものよて論
むるよ由なく徒らふ膽力の虚勢を張るものと謂
ハざりべけんや則ち過ちが知らば改むるよ憚る
勿れの金言お基き其變改もるよ吝りらざるが真
の鋭敏ある相場師と云ふなり只々余が膽力々々
と頻りよ稱もる所ハ僅々たる高下の為めハ狼狽
せざる様務むべしと云ふよあり其膽力よ乏しき
身が以て資金よ富きたるが誇り或ハ資力よ乏し
くして膽力を弄し夫の無定見よして賣買お從事

十一

し父祖傳來の財産を水泡に歸せしめ一人の世間
往々枚挙に遑あらむ(著者も恐らく其一部分なら
ん)又資力なくして眞の膽力に富みて巨万の大利
を得一家を興せし人も亦世間往々ありて是又枚
挙に遑あらば斯く論し來らば何ぞ以て決せん
と云はざるを得ん他なし資力より數倍の膽力が必要
なること前も述べたる如し例せば三府五港何れ
の地を問はば縉士紳商と稱せらるる富豪の人々
は十中の六七迄は期月米賣買に據りて家も興せ
し人にして素より資力も富むたる人ふあらざらん

て膽力を以て耐へ難き困難を忍びて遂に今日こ
結果も達したるが如し之も継いで要するは則ち資力
なり如何も膽力に富むたりとて資力乏しくして
奈でか事成就するを得ん資力乏しくして該業
に従事するは兵糧彈藥なく否軍資乏しくして出
兵も子に同じき理なり米商に喩言ふ相場師は一
膽力ニ資金云々實も膽力と資本は並行せざるべ
からん膽力ハ資本は活用せんが為し要するもの
がればなり(著者は是迄實に失策ありたり今日初めて夢覺め
て茲に論ず)

第四章 期月米賣買上従事を人カ注

意をべき事

期月米賣買ハ前章数々述べたり如く純然たり正業上して加之も文明的の商賣なりハ勿論よし其損益の神速なりハ他の商業無比類なし之れ乃ち一万圓の事を一二千圓よて為し他の商品の一ヶ月ニヶ月も或ハ一年も經ぶれハ斯く高下もべりらざる價格の往來を一二時間よももするものなればなり故に該業上従事をするハ百商百利の目的成立て然り上して着手をべきものにして決

して毎日々々無定見たりハ仲買店上行き賣買まべきものよあらば諺上期月米の賣買ハ為をべし期月米の賣買ハ弄ぶべからずと実上然り例せば兵ハ天下ヲ治むる器にして天下を乱すの器なり兵ハ動をべからざる道よあらざるなり動をさざるも亦道よあらざるなり故に動をべき時機を知て動し平素ハ堅く動さざる必要ありこそ眞の道なりハ期月米も亦同ト理して必きも弄ぶべきよあらざる又賣買共目的成立て、着手を万一相場意外の方上高下して損となり際上順

小買ひ増し賣増し致し(俗小ナンピンと云ふ)又俄
 り上方向に轉ぢり如きは膽力の無き人の為り得
 ば百折不撓の耐忍力故以て損を減ぢり但し
 損を變じて利と化すの法なれば此(ナンピン)の
 良策なり然れども期限の遠き米小非おれ此策
 妙ならずおれ強て平均の賣買を為さば損の上
 りとありことあり深く注意せよ点なきは又兩
 建杯と稱し買ひり着手せし米が損よりおとて
 之を其終より別小賣り致す杯は沙汰の限り
 よりて苟も期月米小着手せし輩の為さば小お

らず又古來有り觸れり陰陽五行十干十二支等
 の理屈を捏ね合せ辰の日買つて翌日己の日よ
 早く利よかりし米は立身と云ひて大利を占む
 りと云ひ月の十二日ハ必き買ふり好し相場上り
 て利を得ると云ひ或ハ庚申の前日よ上り相場ハ
 庚申の翌日下り又庚申の前日よ下れば翌日よ必
 ず上りものなりと云ひ甲子の日よ相場上れば己
 己の日逆上り下り亦同しと云ひハ專の二日目
 下直なれば片ハ專ハ下り上り亦同トと云ひ己
 己ハ庚午の日より入つて七日間ハ上げ槌とて上

り九日月の寅の日より七日間ハ下け槌とて下り
と云ひ杯もすハ無形の説ふして斯く理由の無き
ものと著者の信じて断定せたる昔時ハ衆人此説
を信じて此理ハ符合する人氣出でしやも知るべ
からざ今や世ハ文明ハ進み此等の妄説ハ迷信も
すものや今日商人ハ眼光ハ千里ヲ觀破し耳
ハ傾風の如き聰耳ヲ有し其識見の高きこと天
如く觀察の廣きこと大洋の如く商敵の胸算を窺
はんとし或ハ之を我が術中ハ陥んとし計略百
出以て商機を進退すること昔日の比ハあらず

れば其妄説の的中せざるの理ヲ知る努力ハ是等
説ハ惑ふこと勿き又今日の時勢ハ際してト占
を以て米價高低百發百中と稱し或ハ何々術或ハ
何々館の米價高低先見豫言杯と稱する輩多々な
れとも決して凡人の得て知るべきものあらざれば
苟も文明の商人たるものハ信を措らざるハ勿論
なれども呉々も注意して惑ふべからざることな
り只多少期月米ハ從事する人の為ハ記臆し置く
べき者と信ぜざるハ相場ハ関する古歌なり依て其
大要を左示す

- 一 春弱き頃氣の年ハ五月下げ水無月文月上るものなり
- 一 春三月大高下なき中より時高き日ハ賣れ安き日ハ買へ
- 一 春下げと見て直の安き冬の米春ハかり安くなり
- 一 春上げと見て買上げ冬か米春ハかり高くなり
- 一 春ハけた四月ハ乗せて五月末買の種まけ六七ハの暮

- 一 五月末高くバもたの種がまき六七月ハ徳の利ハ買へ
- 一 高下とも五月下旬ハ天性の利の出る時と兼て知るべし
- 一 買ふ時ハ端午名月米盛りハたハ水無月文月と知れ
- 一 頃乗の年ハまじえて五月上旬ハ五月下るハ變乗の年
- 一 五月米人氣弱くて直ハ上る子々孫々まで賣ハ禁制

- 一 五月米人氣弱くて直ハ上リ四月下旬小買の種まき
- 一 大法ハ五月下旬ダ賣の時秋名月ダ買の時期
- 一 秋高く空腹下リ一割半霜月安く暮も上らま
- 一 秋安く空腹上リ一割半霜月下リ暮上リなり
- 一 秋高く人氣も強く我も亦買たま時ハ米の賣り時
- 一 秋安く人氣も弱く我も亦賣たま時ハ米の買ひ時

- 一 秋の米空腹下リ待受て一割半ウラ二割下け買
- 一 秋の米空腹上リ待受て二割上リハ賣の種まけ
- 一 風吹かぬ二百廿日の安直段定式として待受て買へ
- 一 頃乗の年ハ空腹上リナリ秋名月小買の種まけ
- 一 變乗の年ハ空腹下リナリ秋名月小賣の種まけ

- 一 下るべき米盛りあり上るなり徳のあり程徳
乗ふ買へ
- 一 下げりのが理と手ふ取る様ふ思ふとも秋穂
の上の賣ハ禁制
- 一 冬時よ古米沢山ある年ハ空腹上りの年と知
るべし
- 一 洪水と大風吹きの飛上りあるうふなりてを
たの種まけ
- 一 雨風の日有待かけて米ハ賣り日和を待て米
ハ買ふべし

- 一 下鞘が上鞘ふなり多鞘變り空腹上り徳乗りふ
買へ
- 一 上鞘が下鞘ふなり多鞘變り空腹下り徳乗りふ
賣れ
- 一 米崩れ買落城の飛下げハたハ眼なふさま買
の種まけ
- 一 凶變が頭れをきハ皆強氣了簡なしよ賣の種
まけ
- 一 万人ハ心ふ迷ふ米なれハ連きなりき道へ赴く
が

- 一 仕掛米一度ふきり無分別二度ふ買ふべし
 - 二 度ふ賣るべし
 - 一 百年ふ九十九年の高安ハ三割越へぬものと知りべし
 - 一 懐中ふ金おたやさぎ覺悟せよ金ハ米釣子餌食と知るべし
 - 一 文珠でも備への足らぬ商内ハ高下の變が出れば破る
 - 一 備へなき商内なきハ何時ふても損徳なし
- 商内禁制

- 一 豊年ハ万人弱く我弱く安きふよつて賣ハ禁制
- 一 凶年ハ万人強く我強し高きふよつて買ハ禁制
- 一 高安の理ハ空理よて眼ふ見へぞ影も形もなき物ガ体
- 一 理と非との中ふこもきハ理外の理米の高下の源と知れ
- 一 高下とも五分一割ふ随ひて二割三割むらふ理と知れ

- 一 高きやばせりずいそがぞ待ハ仁むらふハ勇氣乗ハ智の徳
- 一 待つハ仁むらふハ勇氣乗ハ智慧半扱ハ妙術と知き
- 一 高下とも五分一割ハ乗がもし中墨過きて乗ハ馬鹿なり
- 一 高下とも長き足ハ乗がもし短き足ハ乗らざりざりし
- 一 上り理ハ時至らば上りまじ理を非ハ枉げて米ハ随へ

第五章 期月米商と普通商の差異

期月米商ハ則ち投機商業として普通商業と兩者各々特殊の差異ありハ勿論なりども著者ハ簡單ニ其消極的と積極的を論じて文明の商業たるの局以結ハんとし抑も普通商業と投機商業とハ其最終の目的ハ於てハ異り所ナシと雖も其手段方法ハ至りてハ兩者各々大ハ性質が異りせり縦ハ普通商人ハ商況如何を視察して事取為きり無心ハ商業を營ミ唯々小心翼翼僅ハの利益を積んで永遠の間ハ富きを為き手段を取り其心の狭

きこと猫の額の如く其振はぶること病める狗
如くふして店頭咫尺に買客を延きぱち
算盤の響きと共にへり間の間少少の物品を
賣附るが以て満足するものなり是れ乃ち普通高
人ハ一小商域に在りて一定得意を求むるに據る
ものなりバカ金之きふ反して投機商人ハ單に物
品の有無多少に因りて需用供給の釣合を考へ相
場の高下も必き處に就き前以て其見込に附け賣
買を爲して一攫万金の利を占めんと欲して各地
到るに於て市場とし電制電撃の商戰場裡に立ち天

下幾多の人を敵と爲しつゝ、火花が散して勝利を
争ふの勇氣は有るものなり普通商人の賣買ハ
現場取引即ち物品と代金とを直ちに交換するを
本旨とせけれども投機商人の定期賣買ハ前章に
述べたる如く手形切符を現品或ハ実貨と看做し
て取引せり斯の如き差異を以て見るときハ投機
商人の毎に取る方法ハ積極的の屬し普通商人の
取る手段ハ消極的の屬するものと謂はざるべし
らず是れ則ち文明的商人の従事すべき所以の
のなり

斯の如く天下到る迄は市場とて勝利を争ふ不_レ就
てハ取引所の概略を知らざるべ_レからず著者ハ参
考の上巻末ハ各地取引所の真景ヲ知_レたり全國
取引所の総数ハ九十有餘ヶ所あれども其大略ヲ
左ハ掲_レぐ

實驗 相場博士 大結
應用

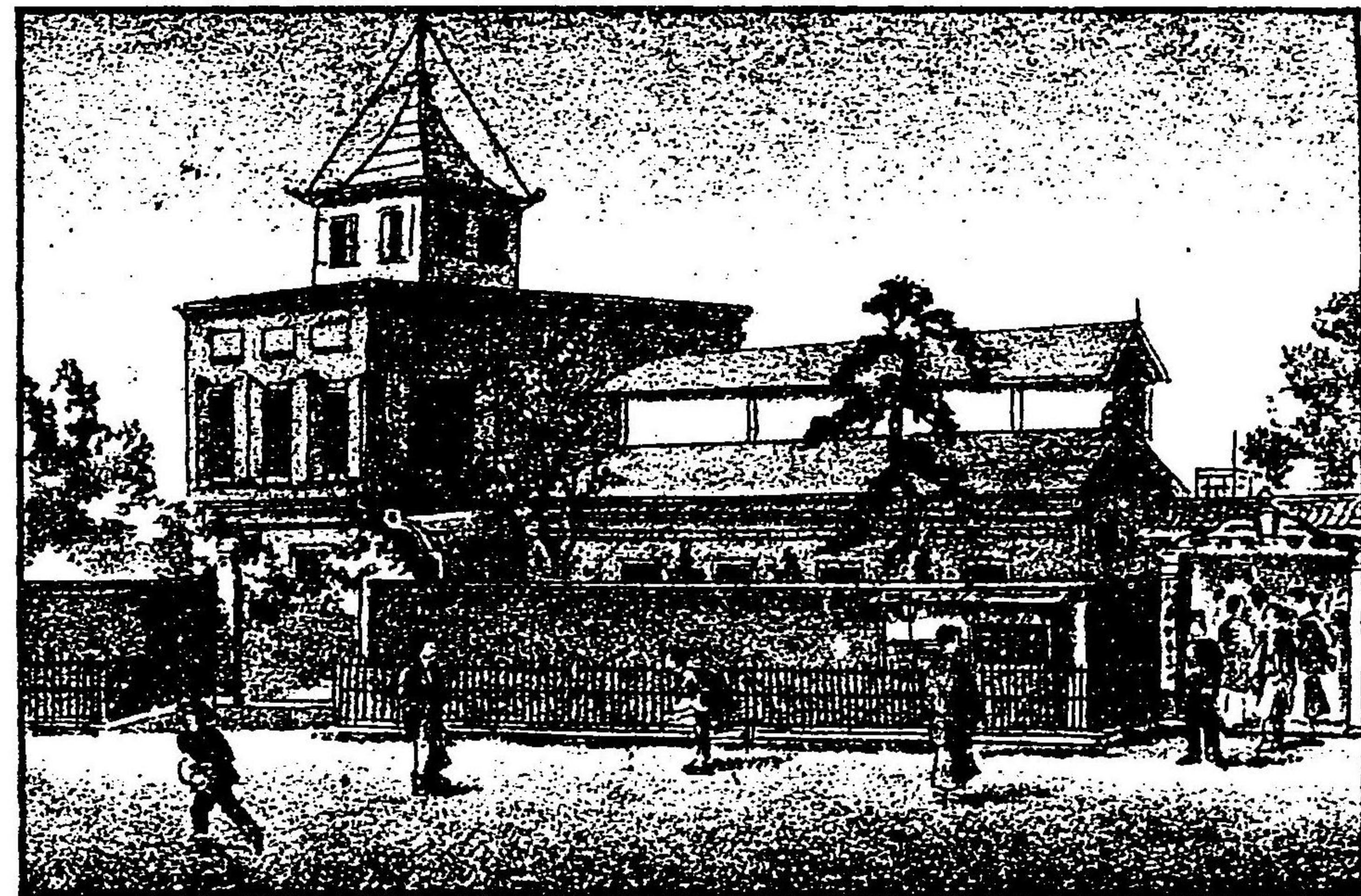
各地取引所之圖



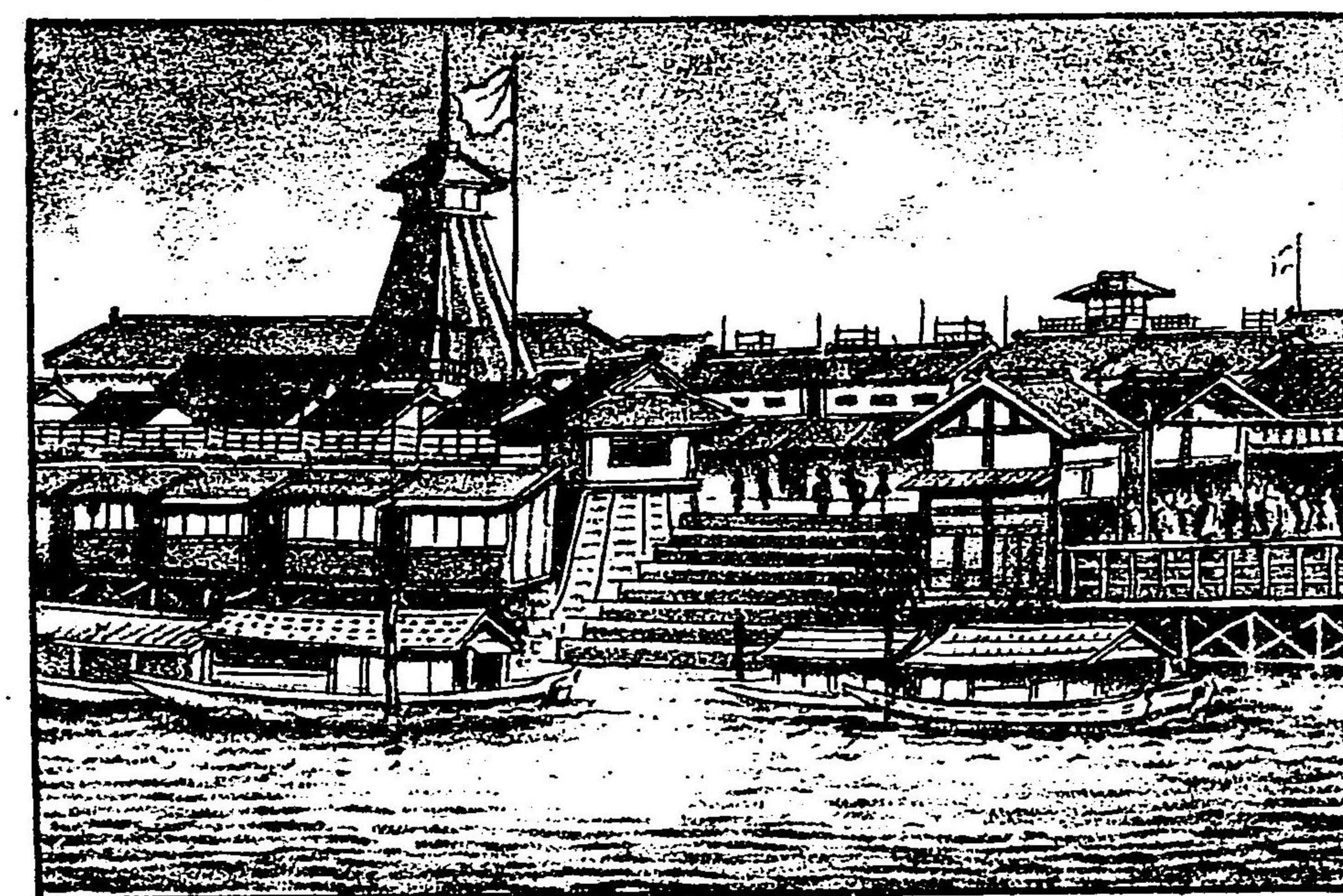
所引取穀米都京



所引取品五外穀米戶神



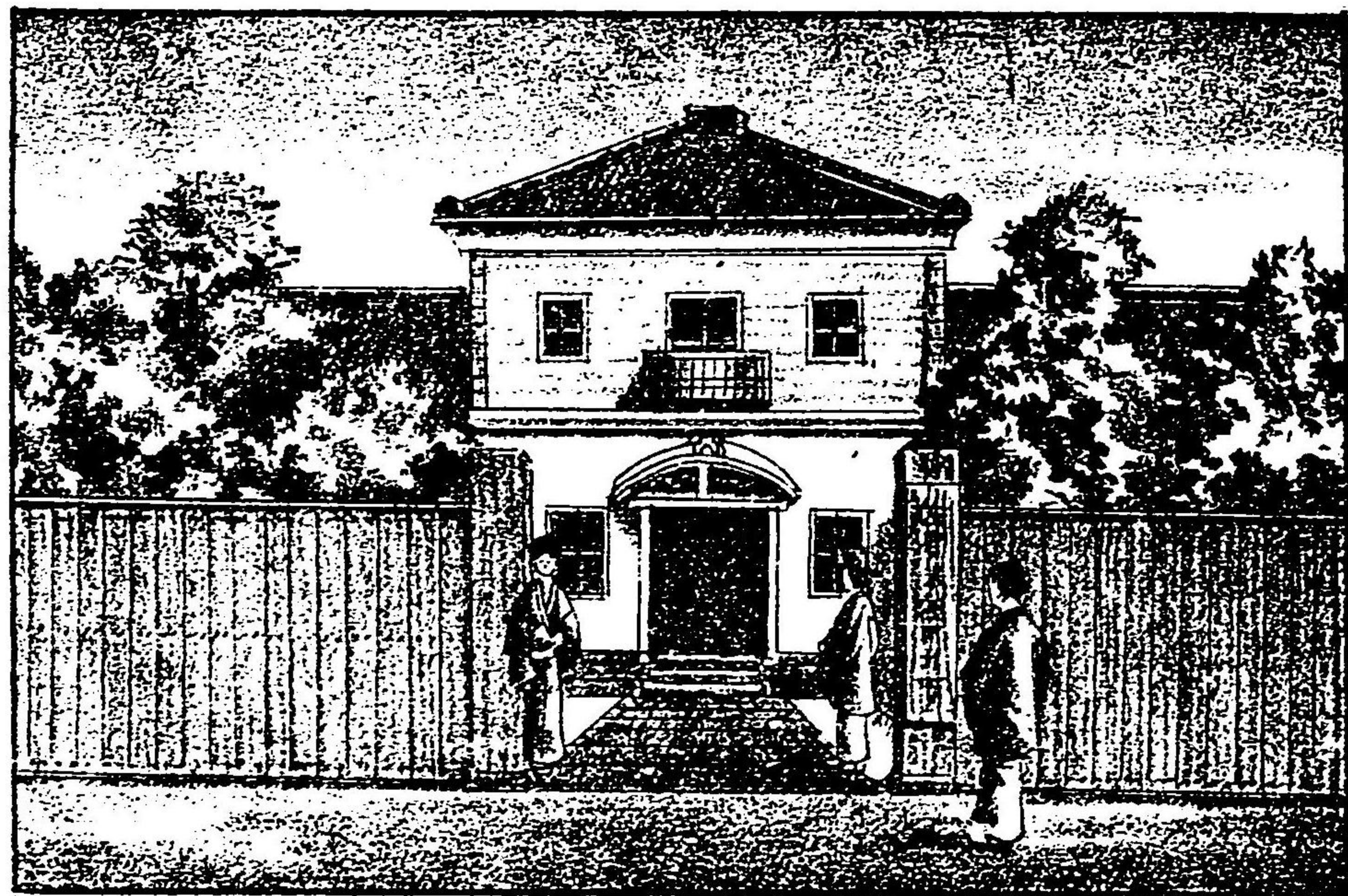
所引取穀米京東



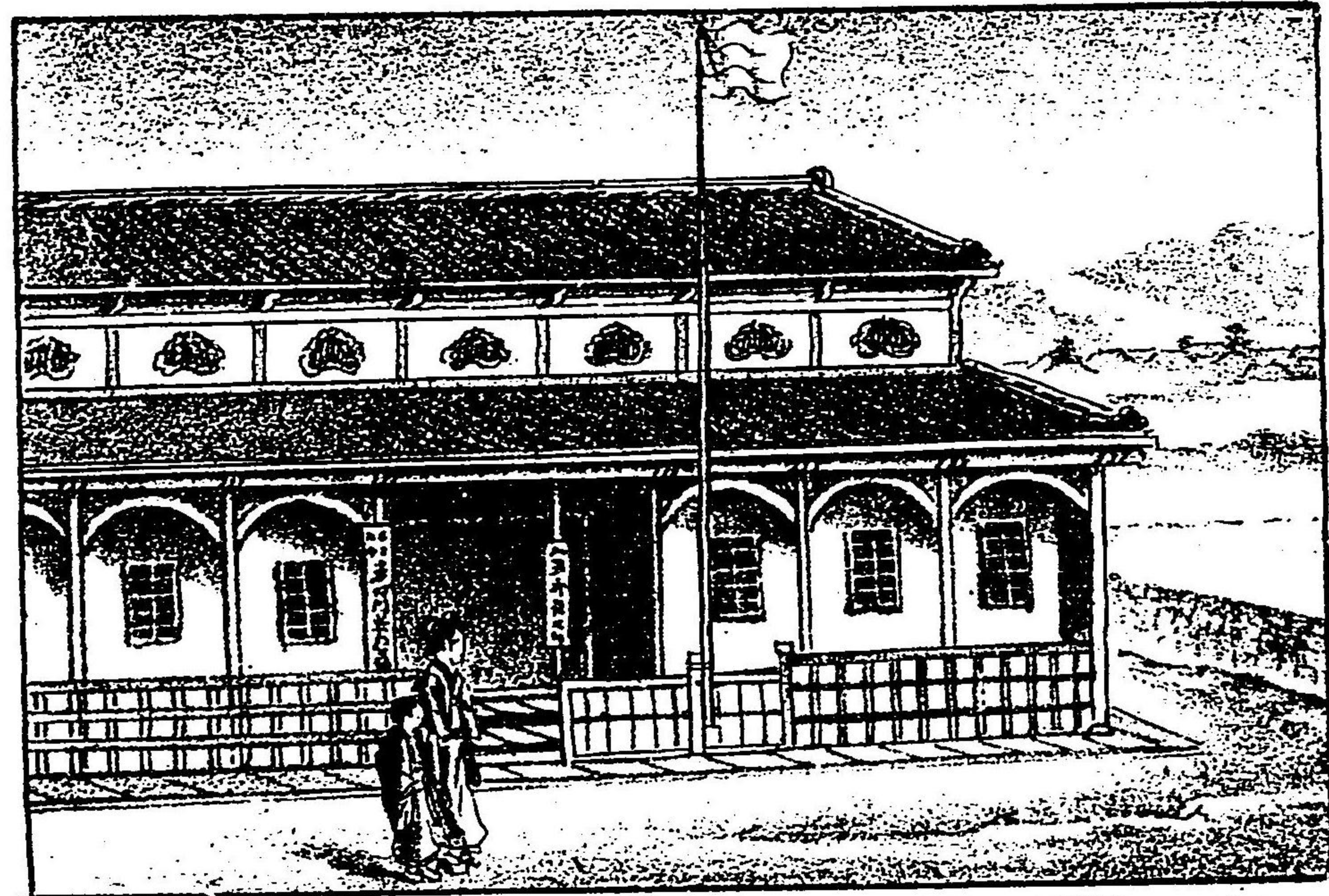
所引取穀米阪大



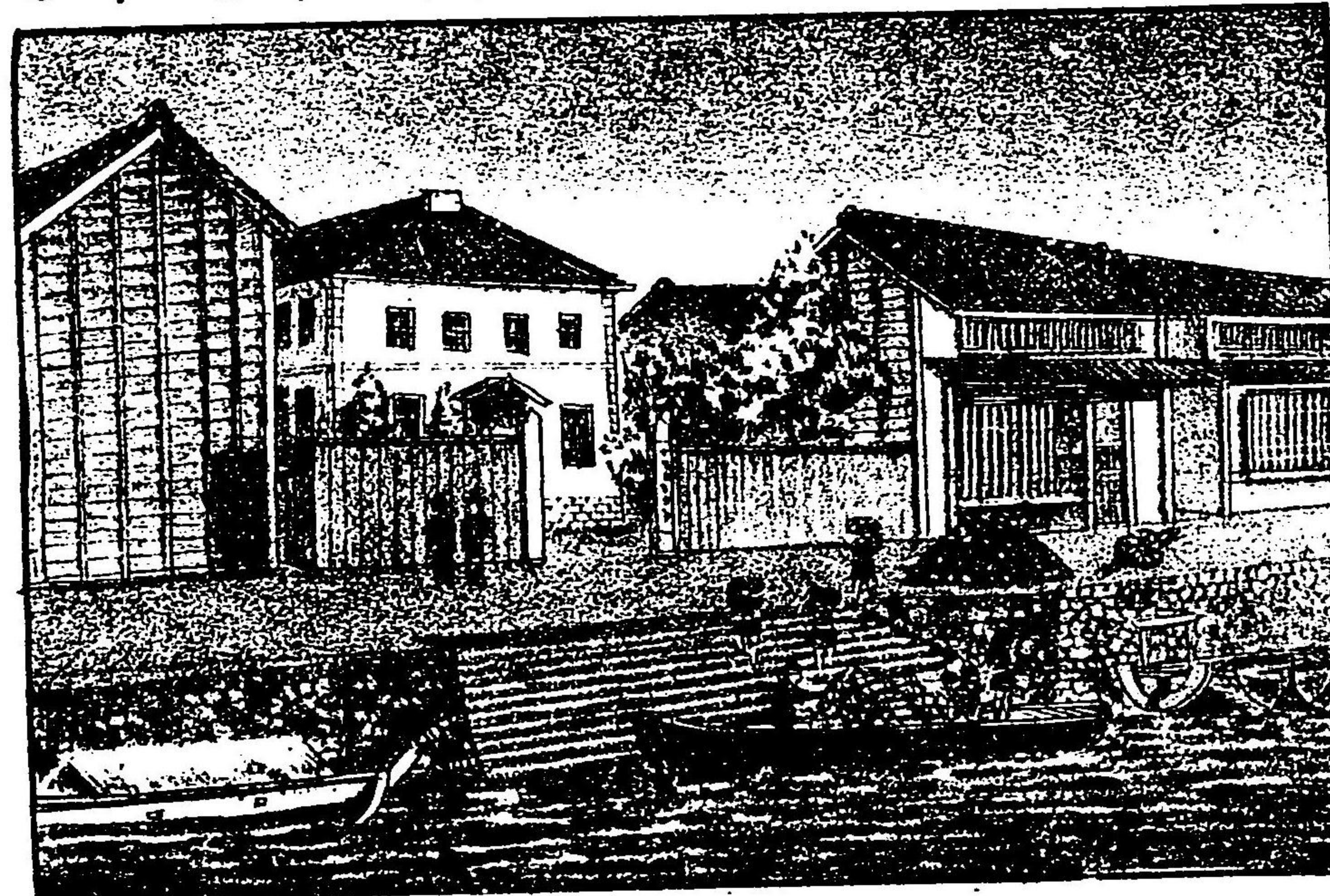
廣島米綿取引所



佐賀米穀取引所



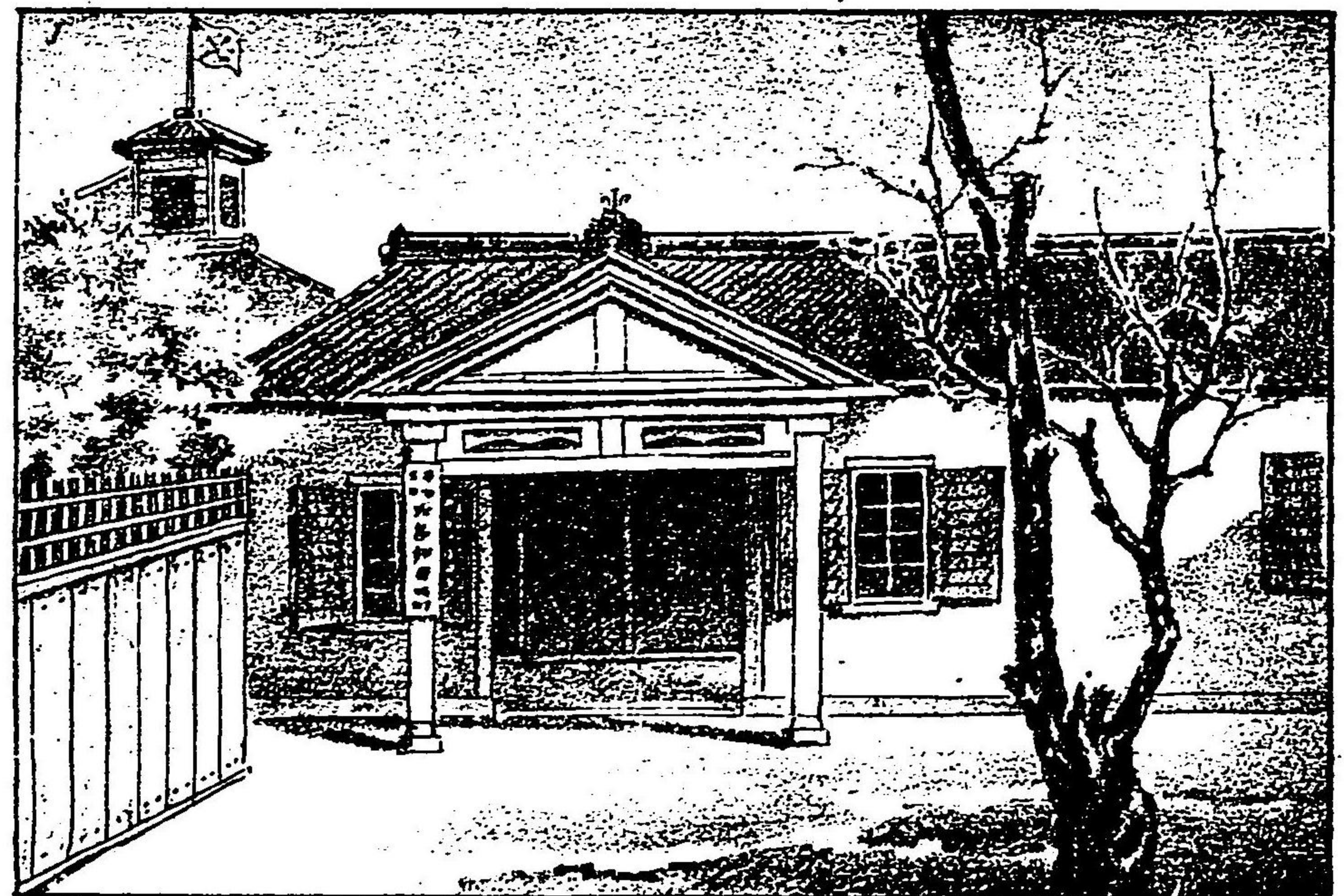
赤間關米穀取引所



尾道米穀取引所



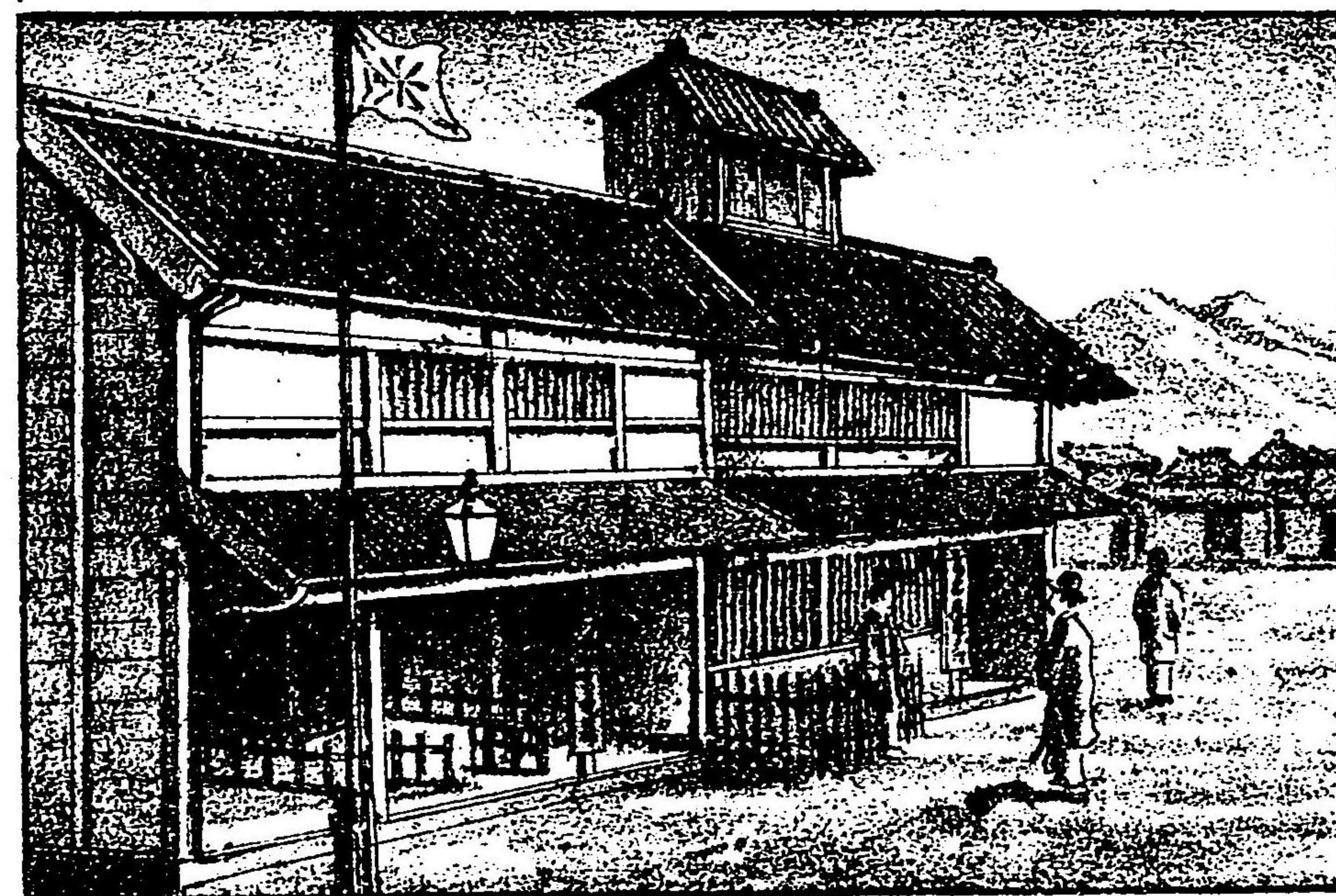
所引取品一外穀米市日四



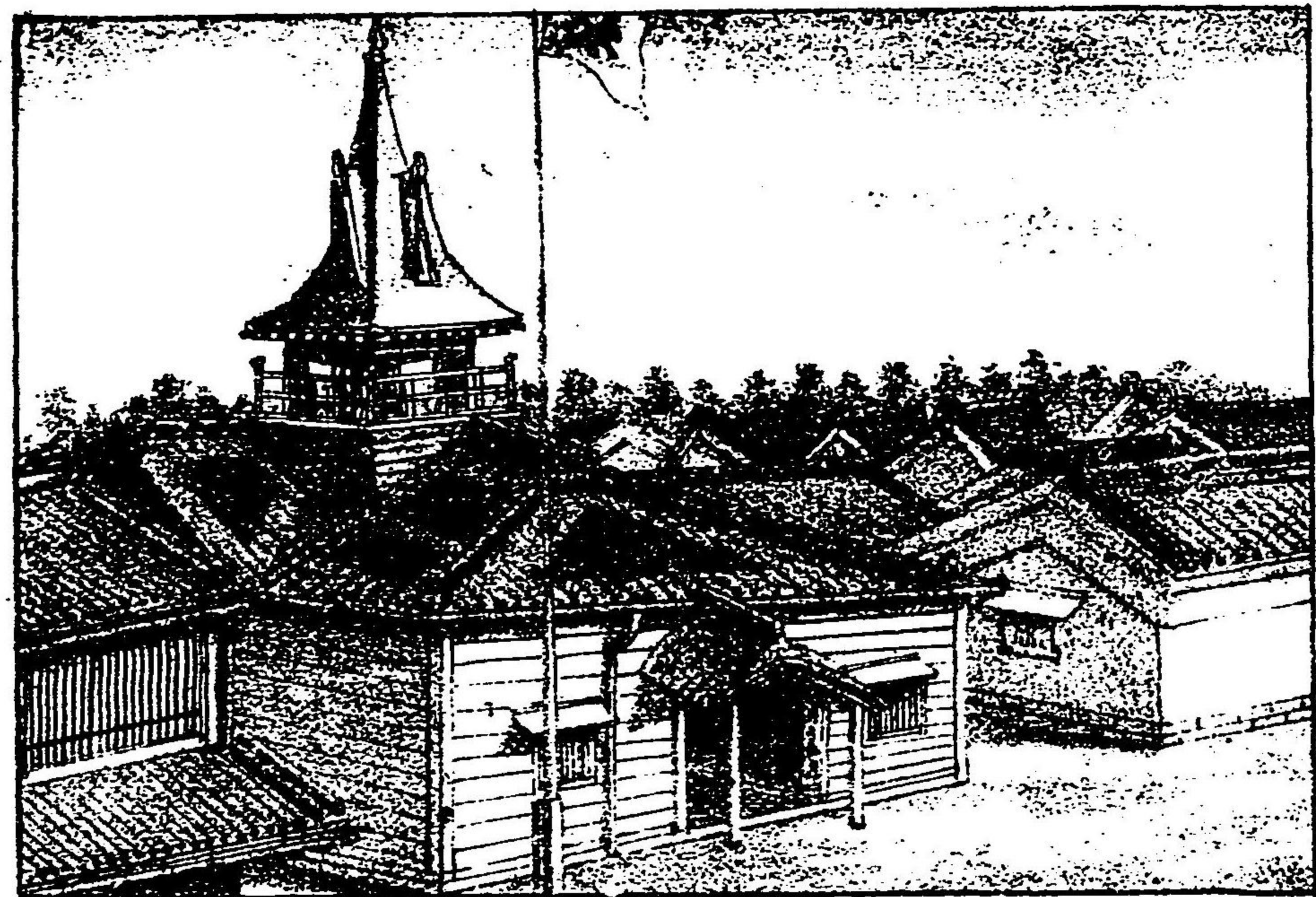
所引取穀米津



所引取穀米津大



所引取穀米名桑



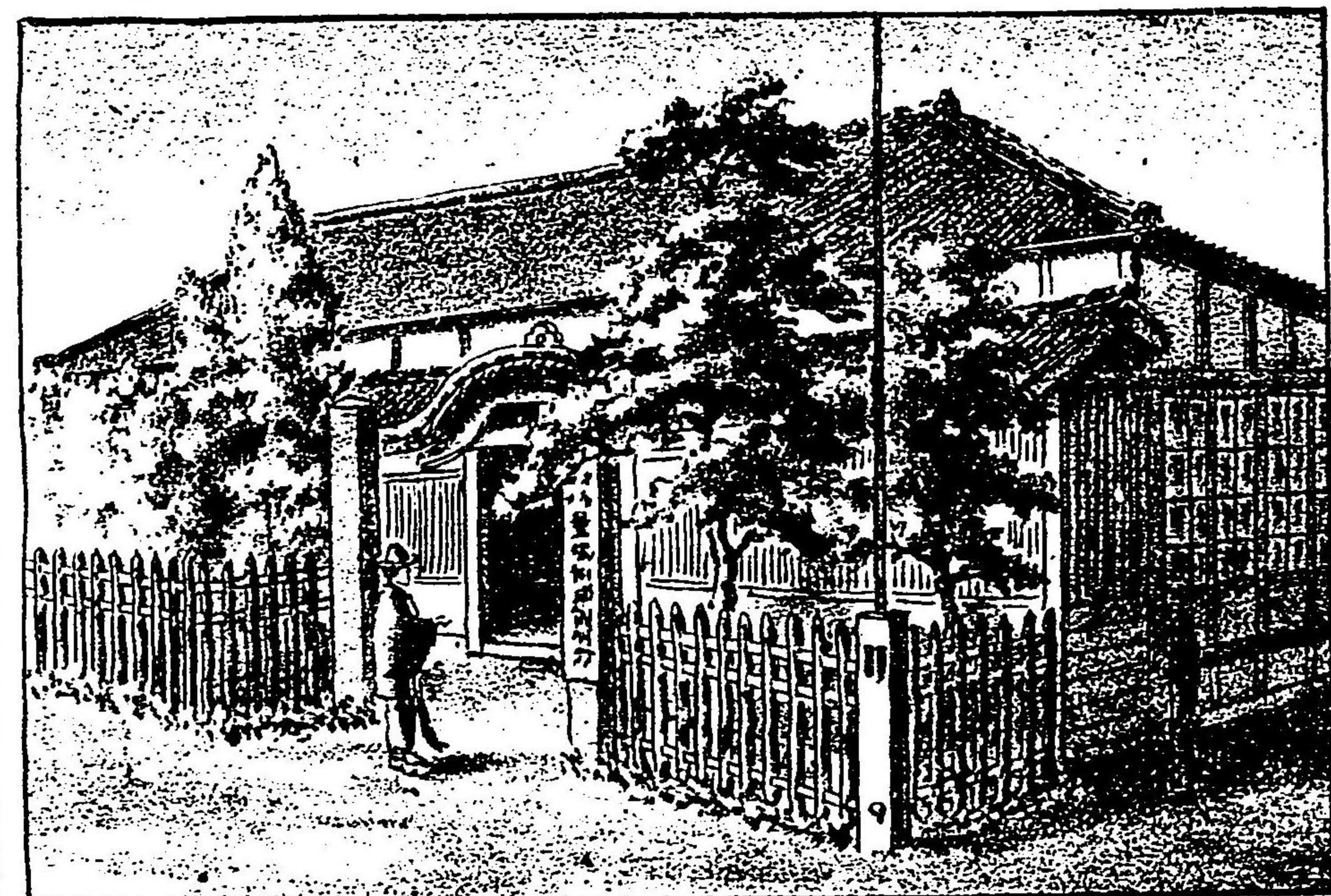
濱松米穀取引所



静岡米穀取引所



名古屋米穀取引所



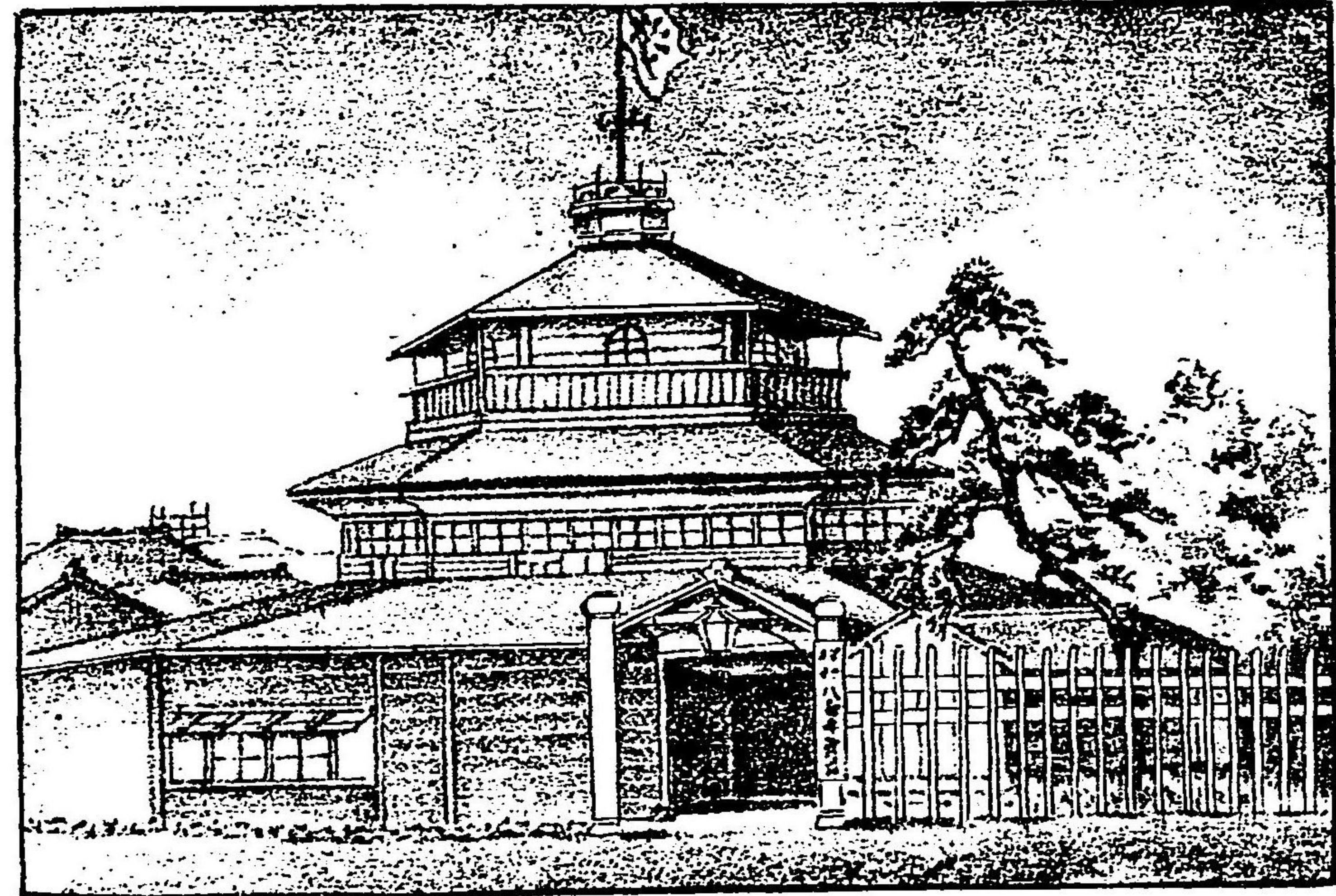
豊橋米麦取引所



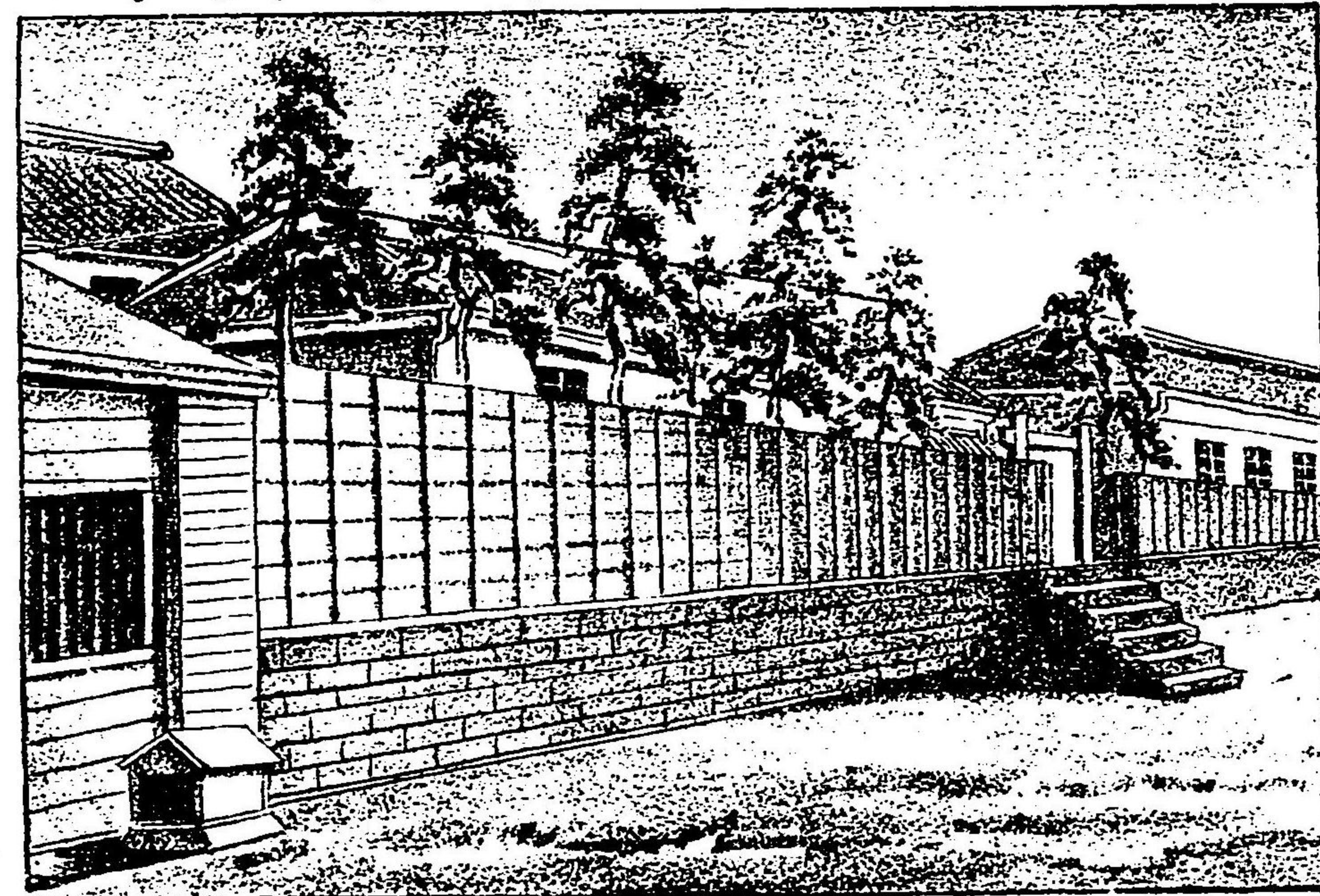
川越米穀取引所



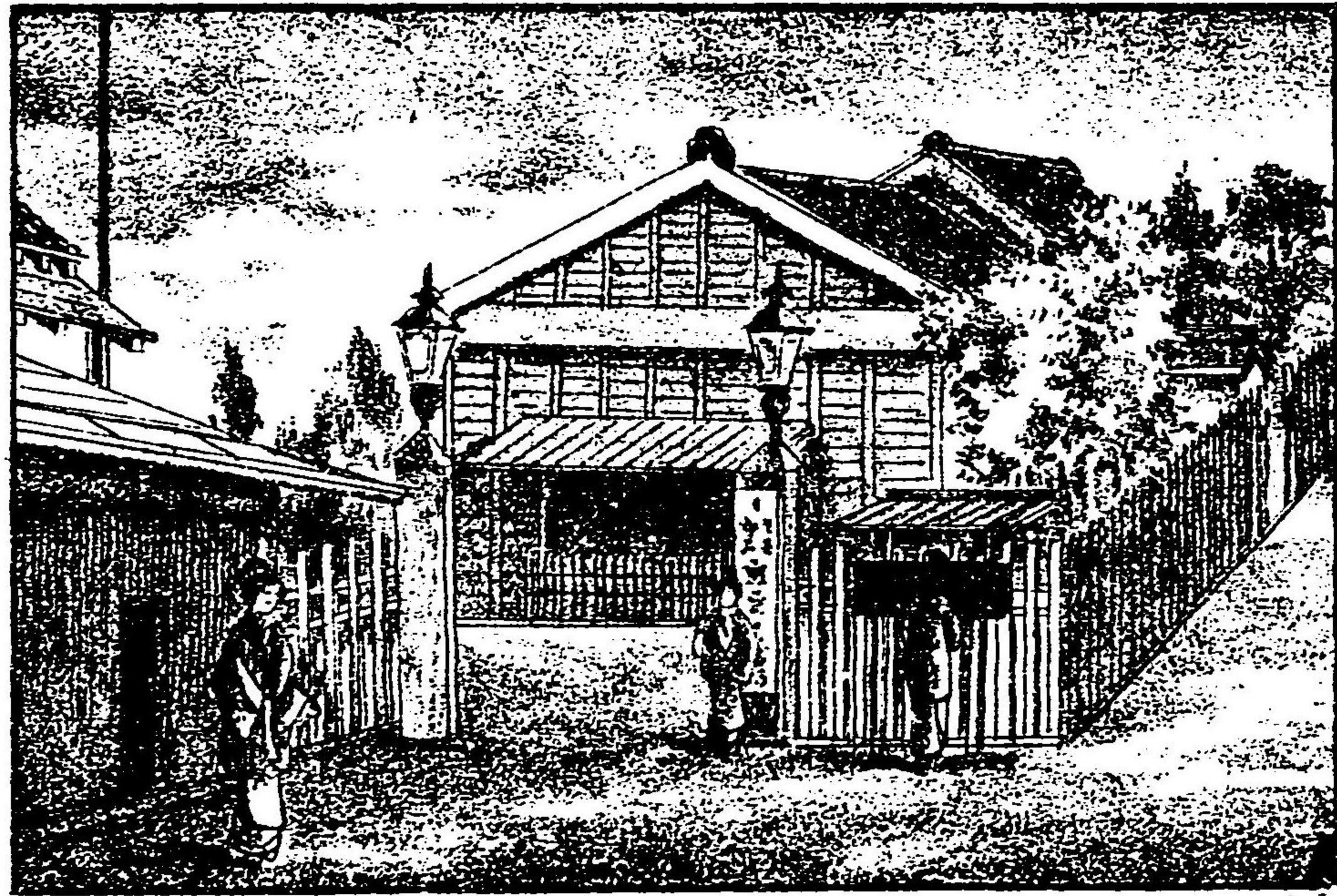
熊谷米穀取引所



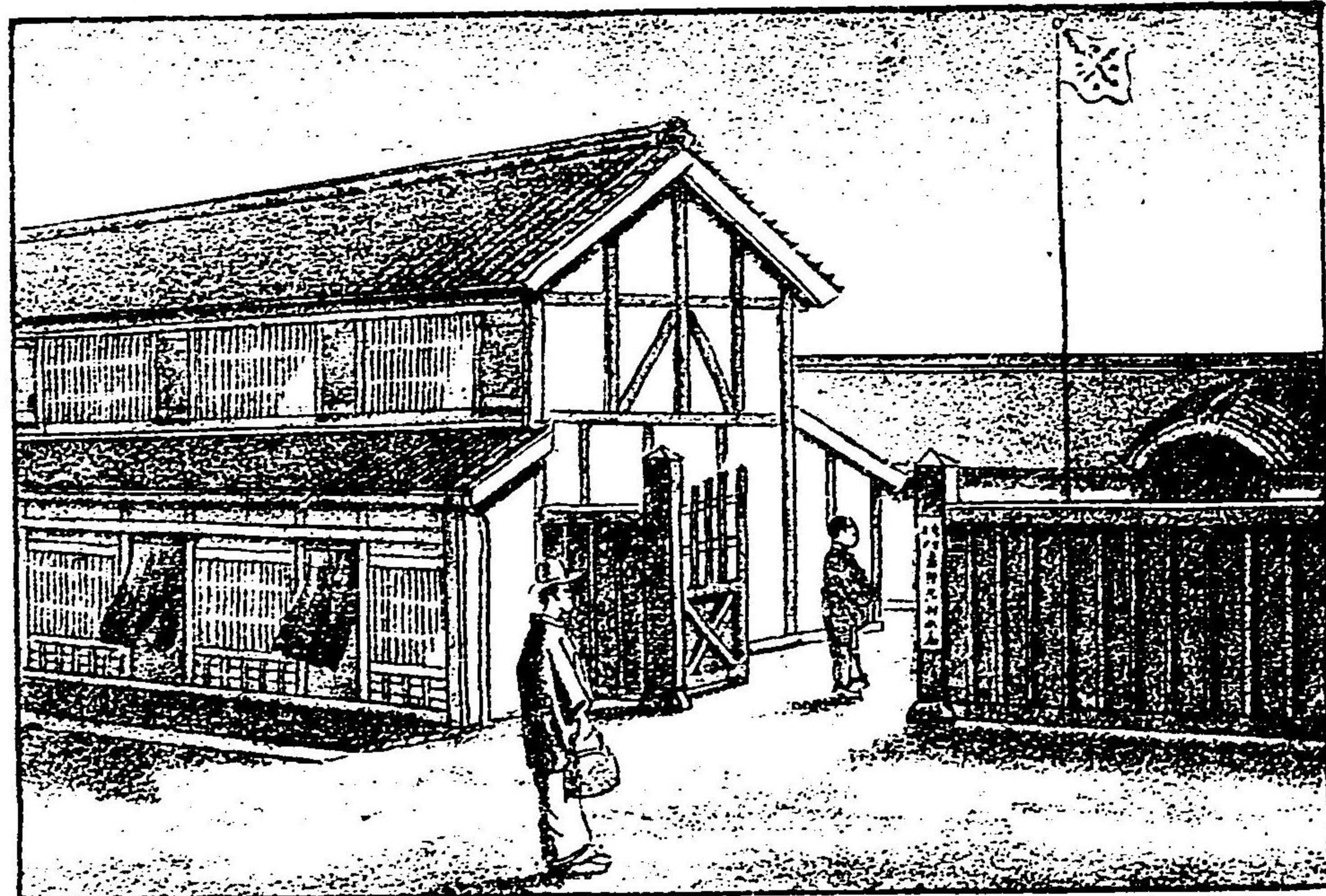
八王子米穀取引所



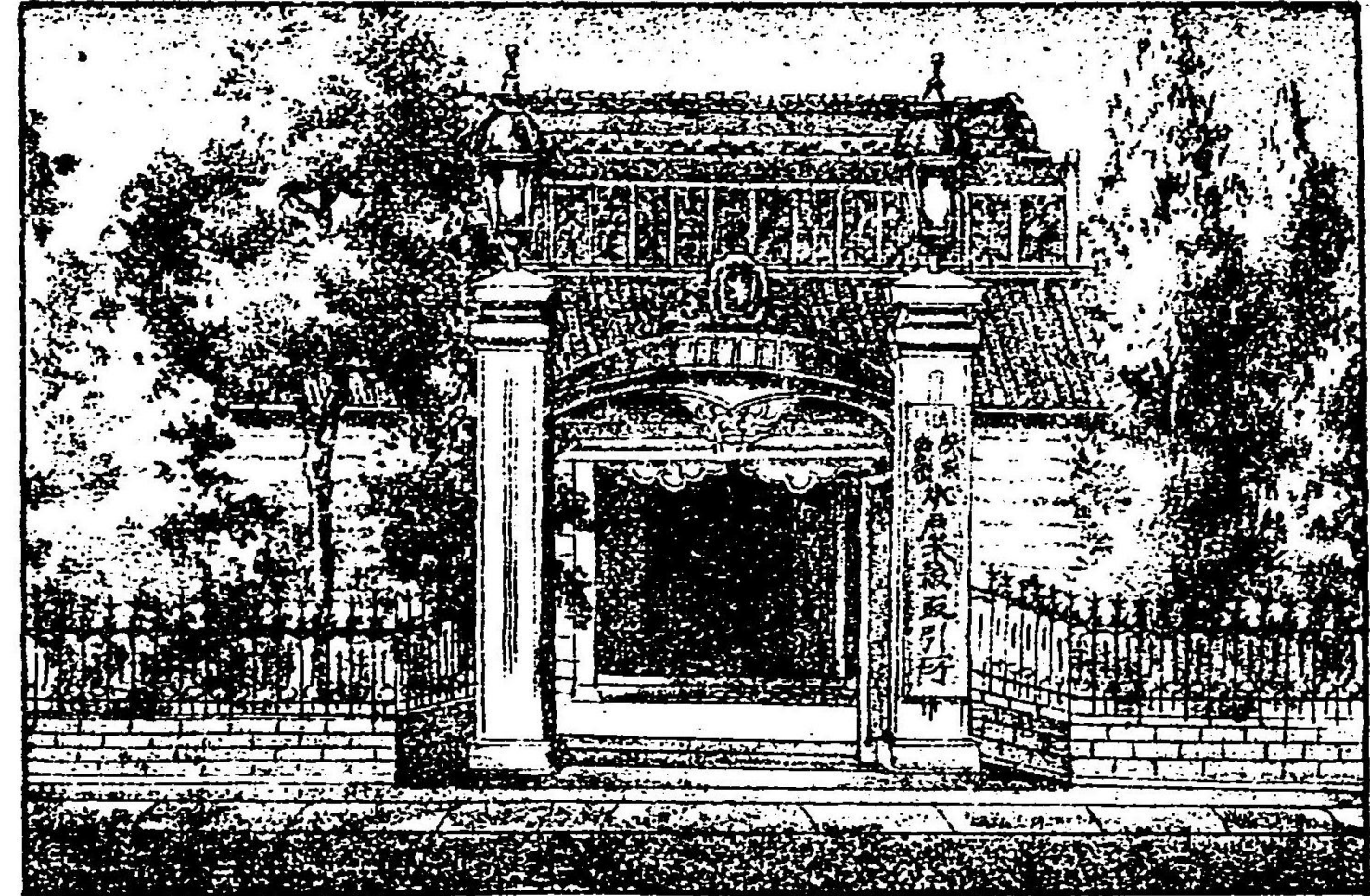
横濱米穀取引所



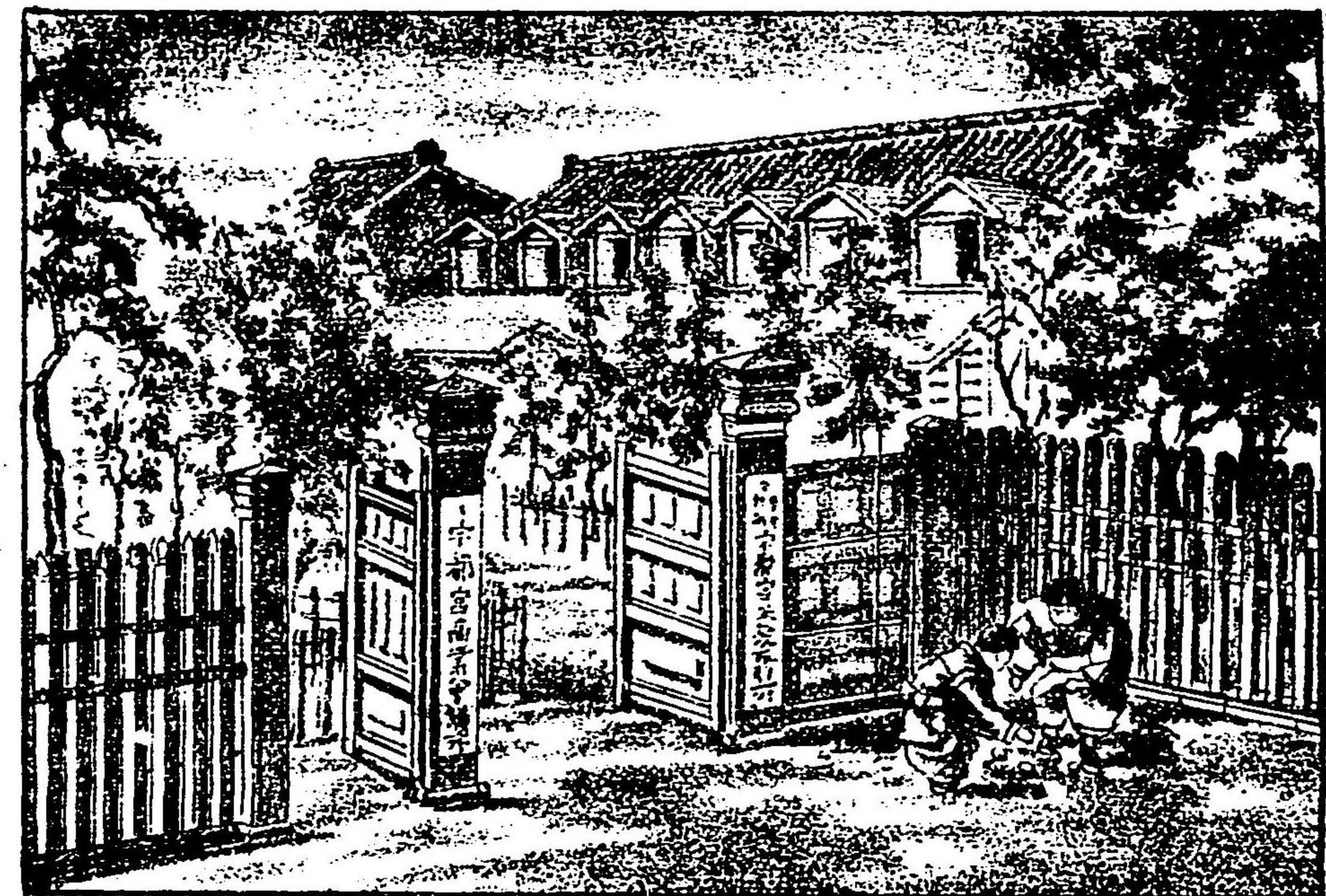
所引取麻米木枋



所引取穀米野長



所引取穀米戸水



所引取穀米宮都宇



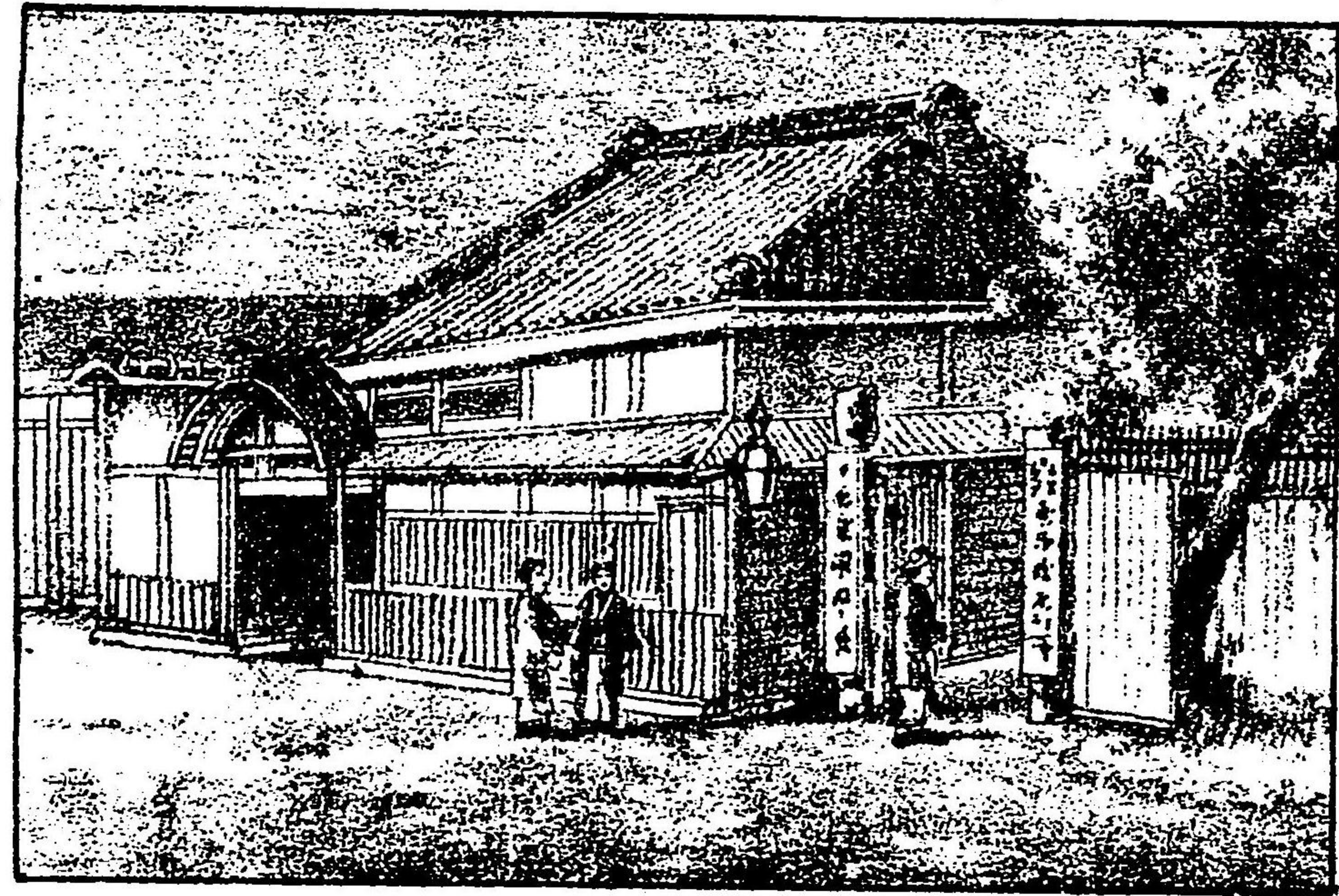
金澤米穀取引所



高岡米穀取引所



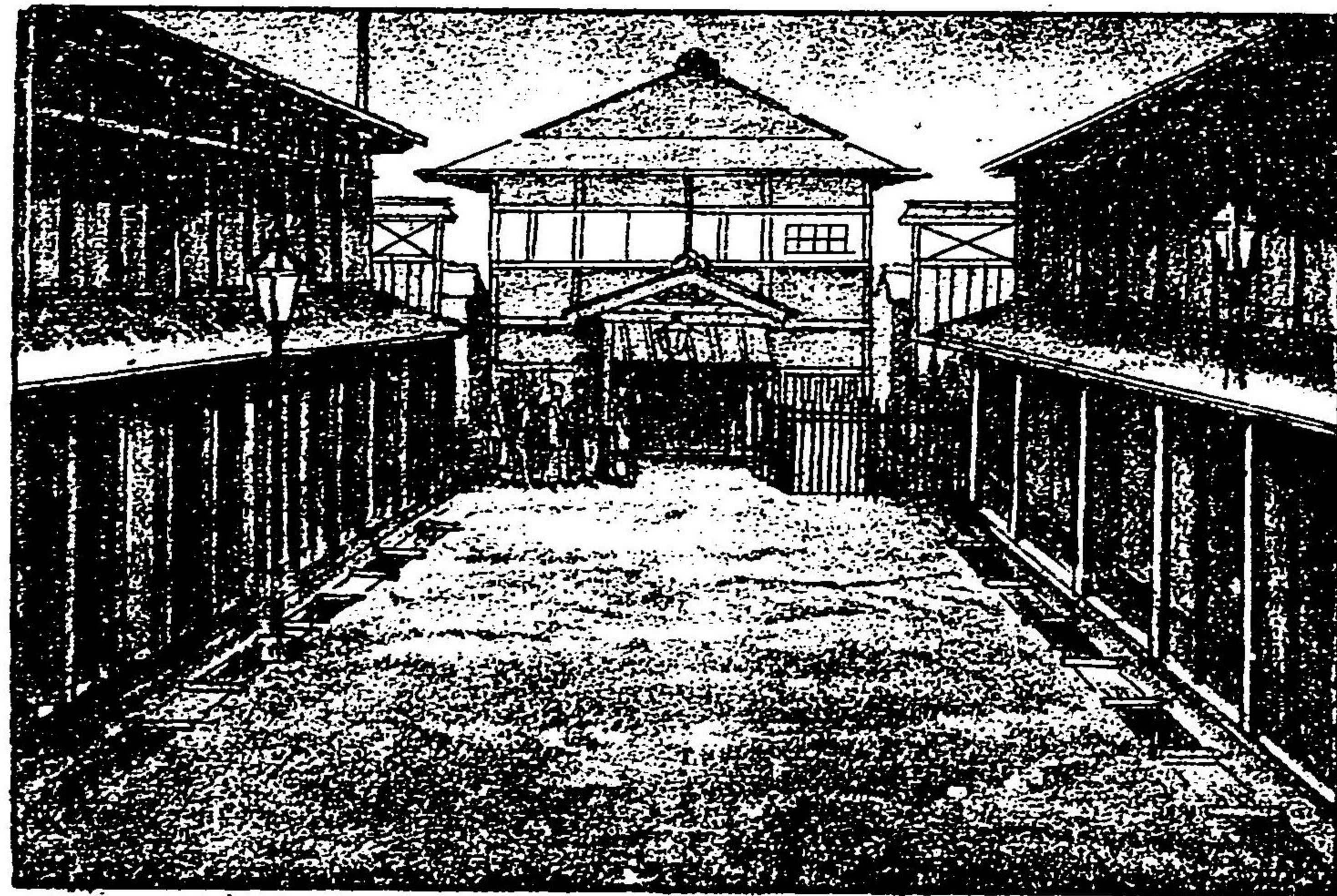
高崎米穀取引所



前橋米穀繭絲取引所



石巻米穀取引所



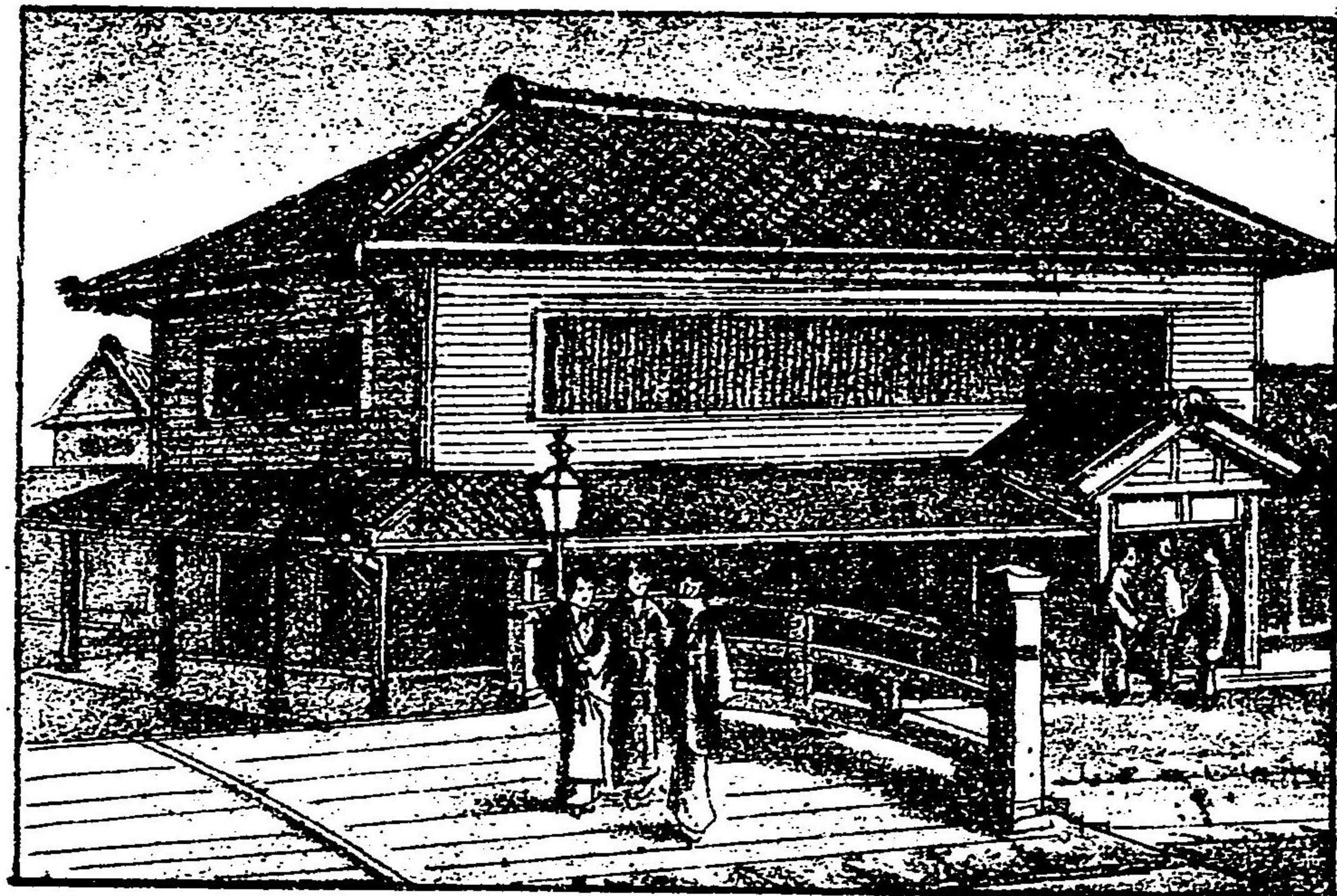
秋田米穀取引所



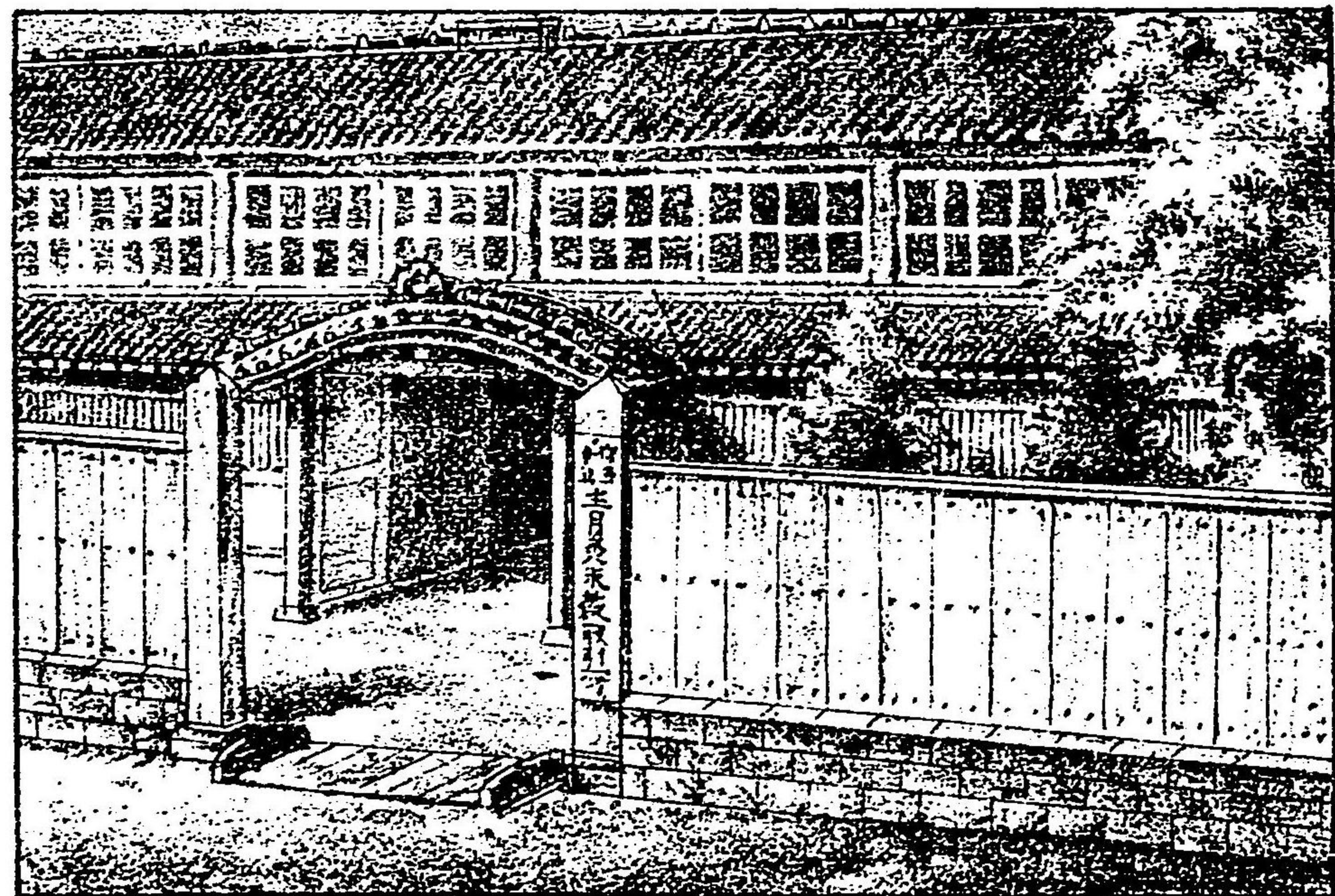
富山米穀肥料取引所



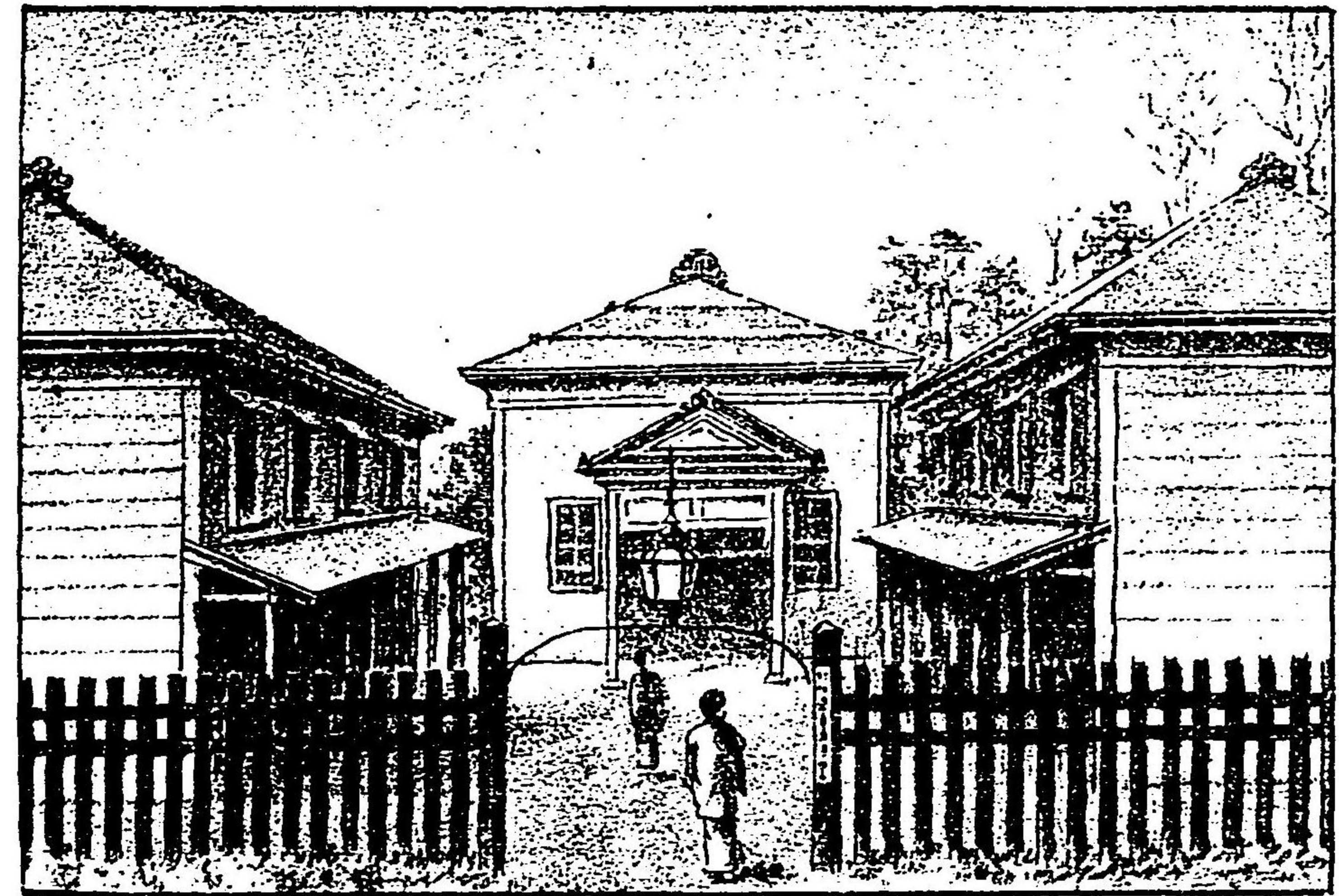
仙臺米穀取引所



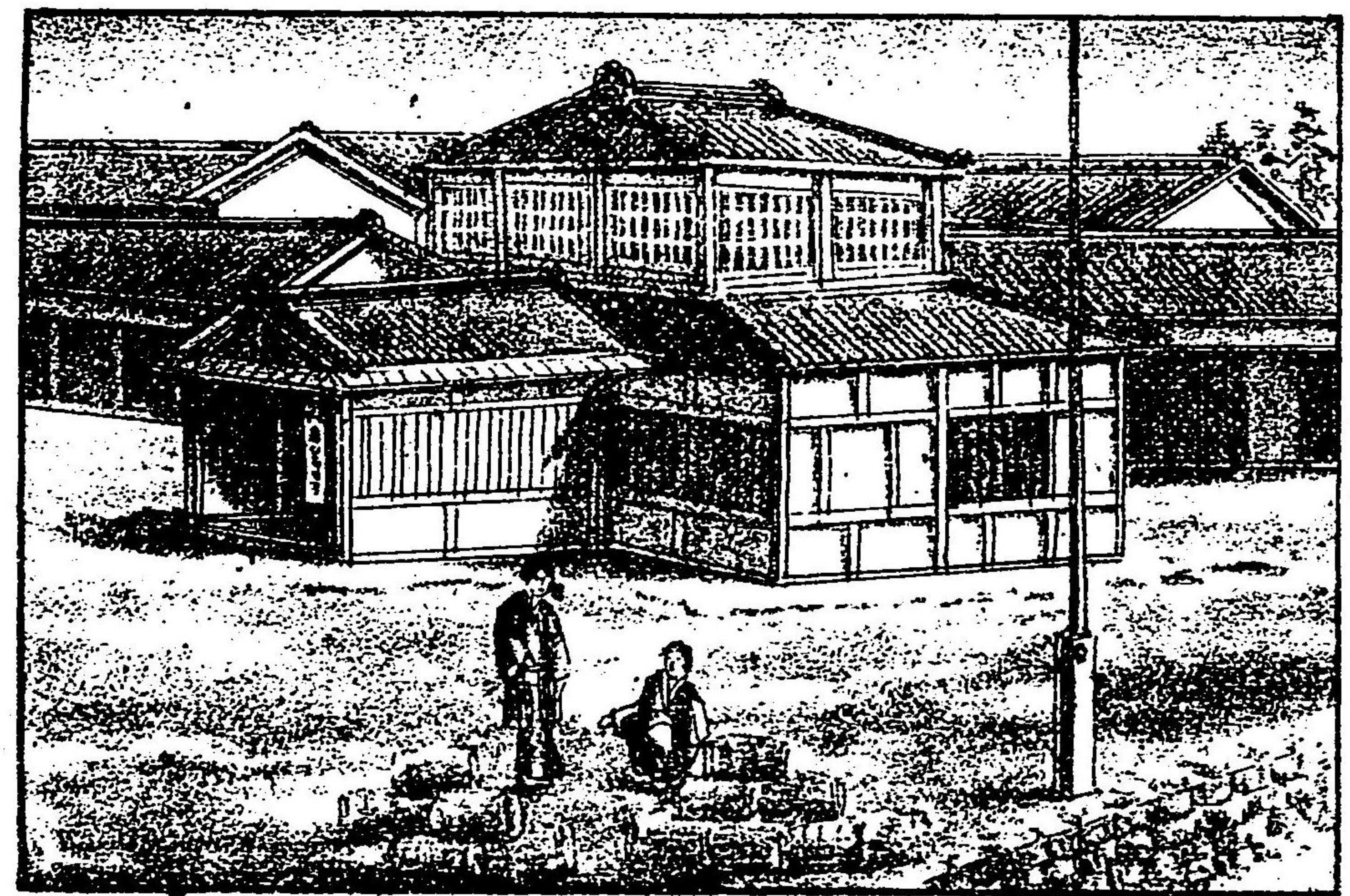
新瀉米穀取引所



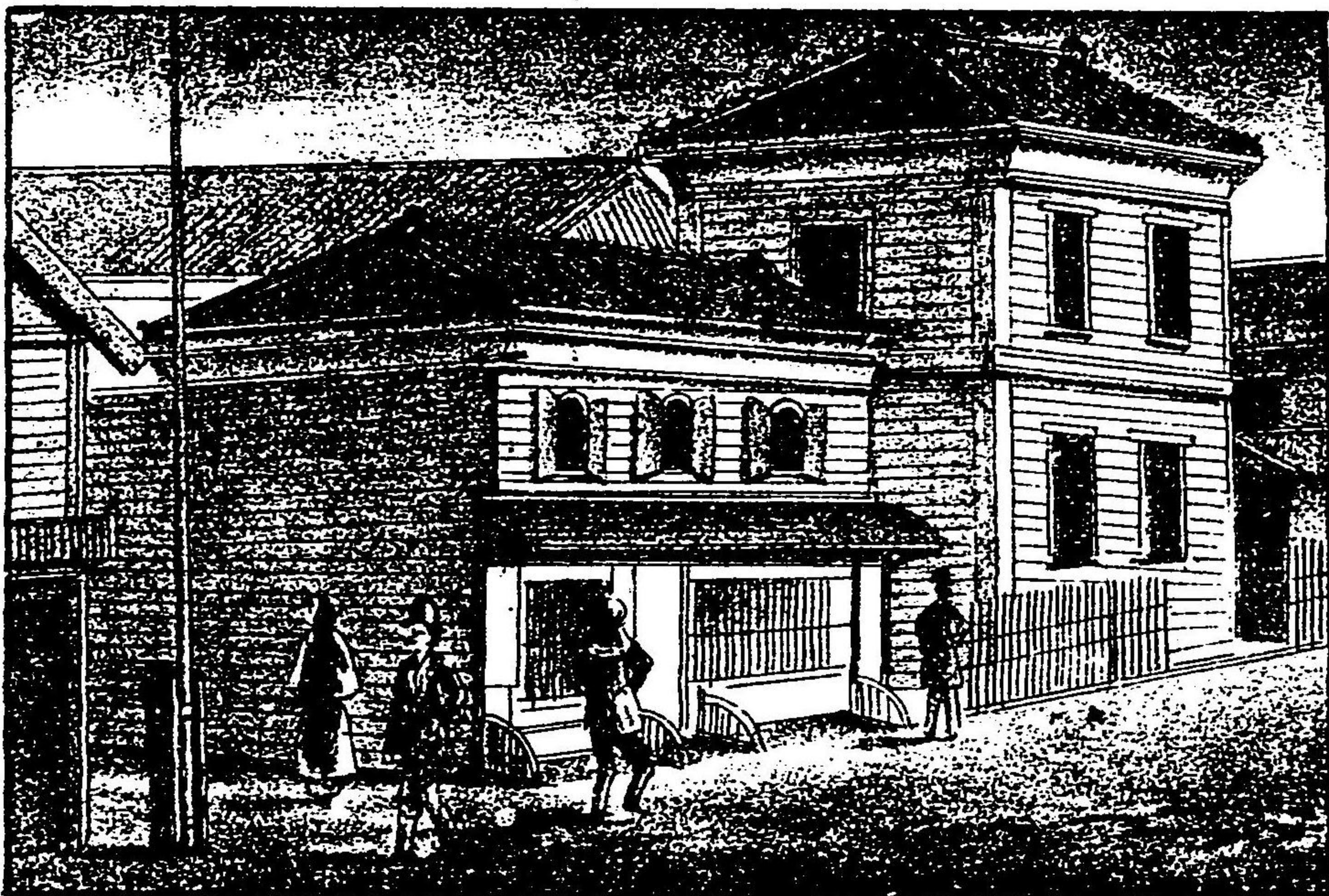
青森米穀取引所



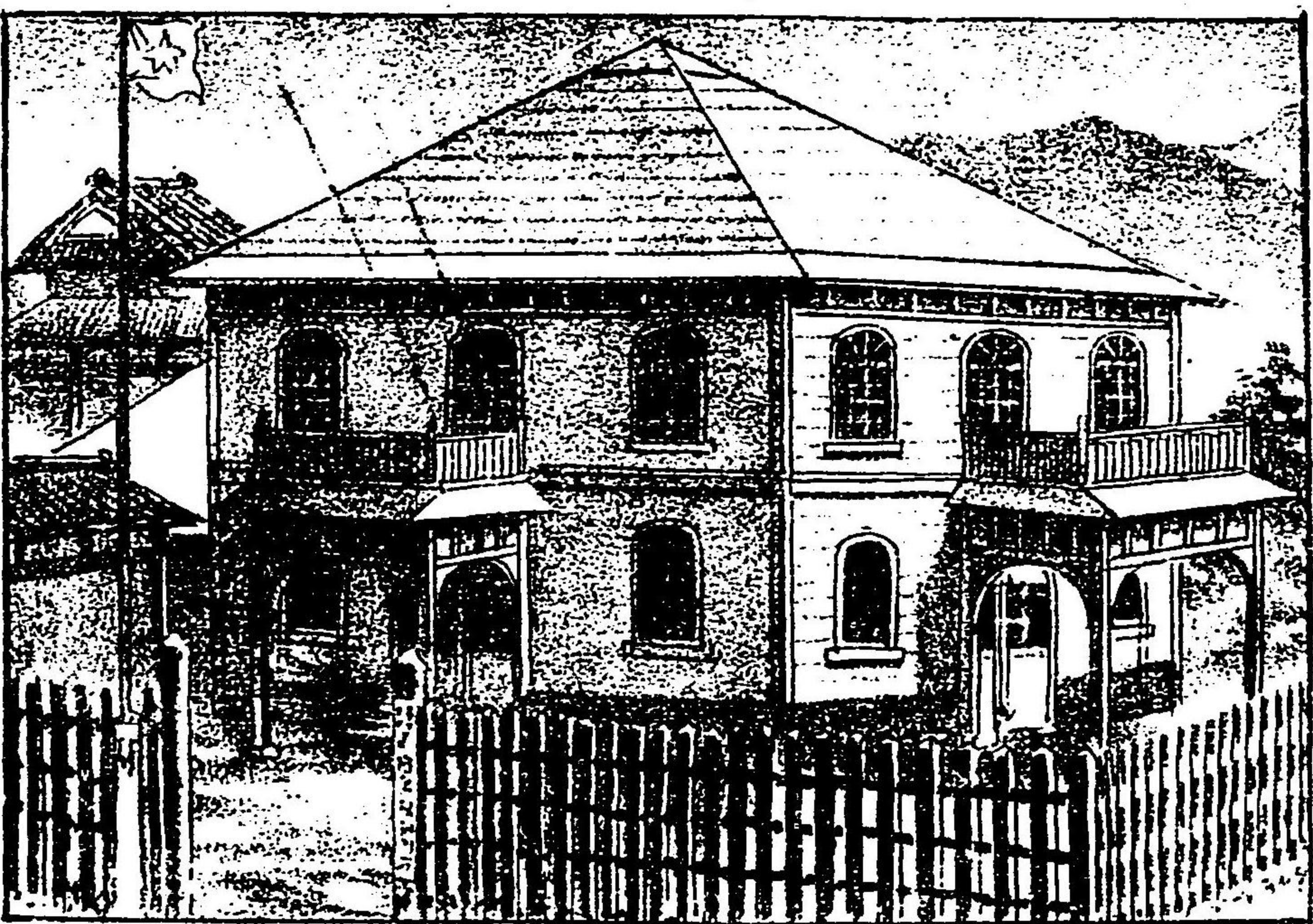
六曲米穀取引所



直江津米穀取引所



函館米鹽海產物取引所



小樽米穀鯨肥料取引所

明治二十八年十月七日印刷
 全 年 全 月 十 日 發 行

價 貳 拾 錢

東京市京橋區中橋和泉町四番地

著作發行
 兼印刷者

榎本賢次郎

東京市京橋區中橋和泉町四番地

發賣所

新 彩

版權所

新 彩

一攫万金の好資料

清原鎮藏君編

○米價高低足取表

(正價壹圓郵稅四錢)

本表ハ明治十七年ヨリ至廿八年八月ニ至ル東京米穀取引所建
相場日々ノ寄附大引高直安直ヲ示シ其變動毎ニ理由ヲ明
記シ一日瞭然タル好参考表ニシテ斯道ニ從事スルノ士ハ座右
ノ友トシテ鴻益アル相談相手ナリ
猶續々増補出版ス

發行所

(東京々橋區中橋和泉町四番地)

新彩館

清原鎮藏君編

○米相場高低表

(正價五拾錢郵稅貳錢)

本表ハ天保元年ヨリ明治廿八年七月ニ至ル五十七年間ノ月々高
低ヲ示シ豊年不安凶年不高ノ理由ヲ明記シ明治年間ニ至リ
テハ統計年鑑ヲ記シ目了然既往ヲ推シテ將來ヲ觀察スルヲ得ル好参考表
ナリ

發賣所

新彩館

新彩館業務廣告

- 一 新彩館ハ石版銅版ノ彫刻印刷ヲ以テ專業トス
- 一 新彩館ノ特色ハ懇切丁寧神速ヲ旨トシ百事勉勵好需ニ應ス
- 一 新彩館ノ石版銅版ハ彫刻緻密印刷鮮明ニシテ價格廉ナル

コト都下ニ冠タリ

一新彩館ノ意匠ハ特流ニ倣ヒ和洋ニ通シテ最モ精妙ナリ

一新彩館ノ株券商標切符印紙類ノ彫刻印刷ハ精密妙工ニシテ質造等ノ憂ヒヲ避ケルニ妙ナリ

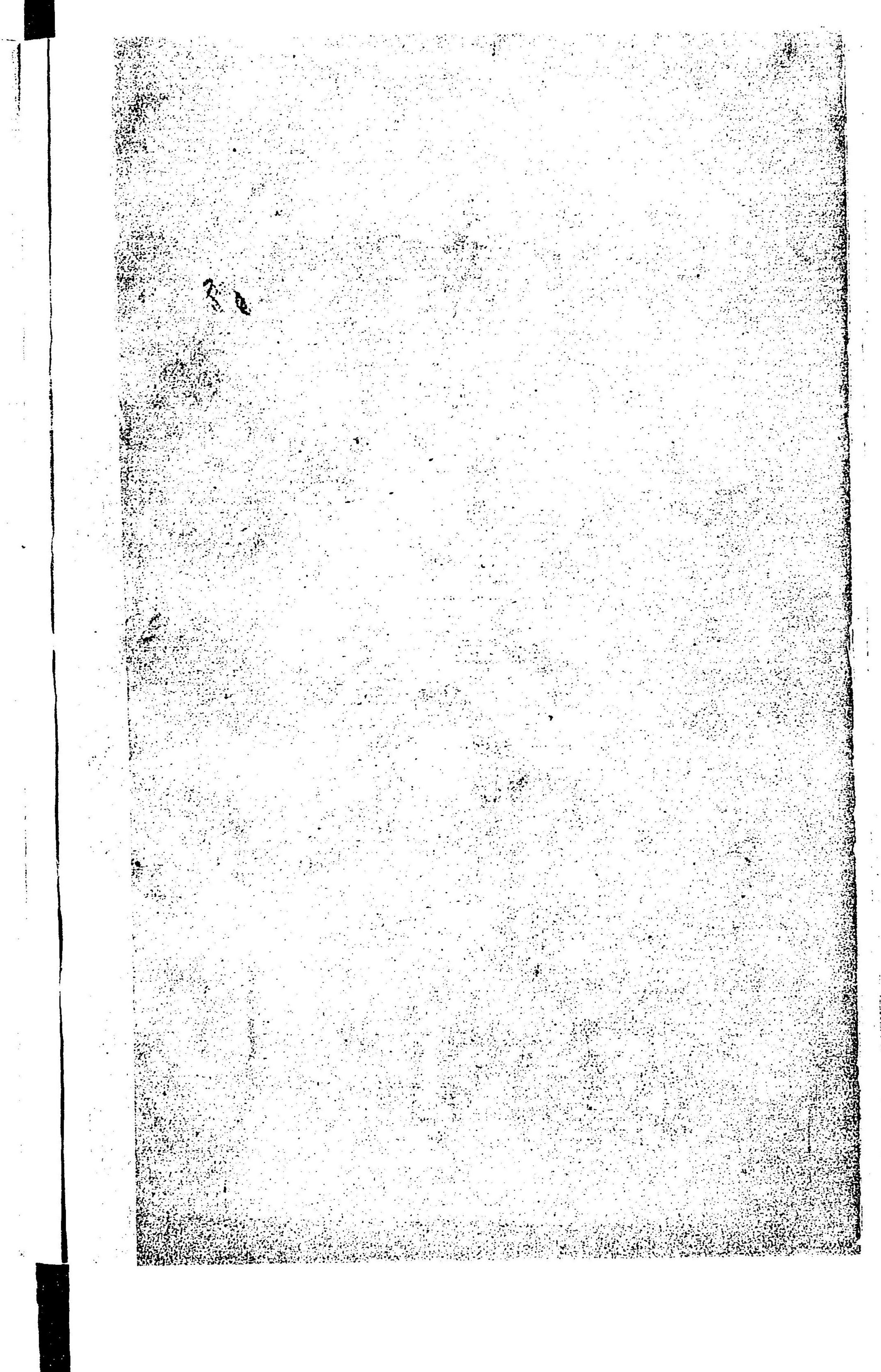
一新彩館ノ名刺廣告類ハ紙質善良ニシテ題字ハ都下有名ノ揮毫家ト持約アリ

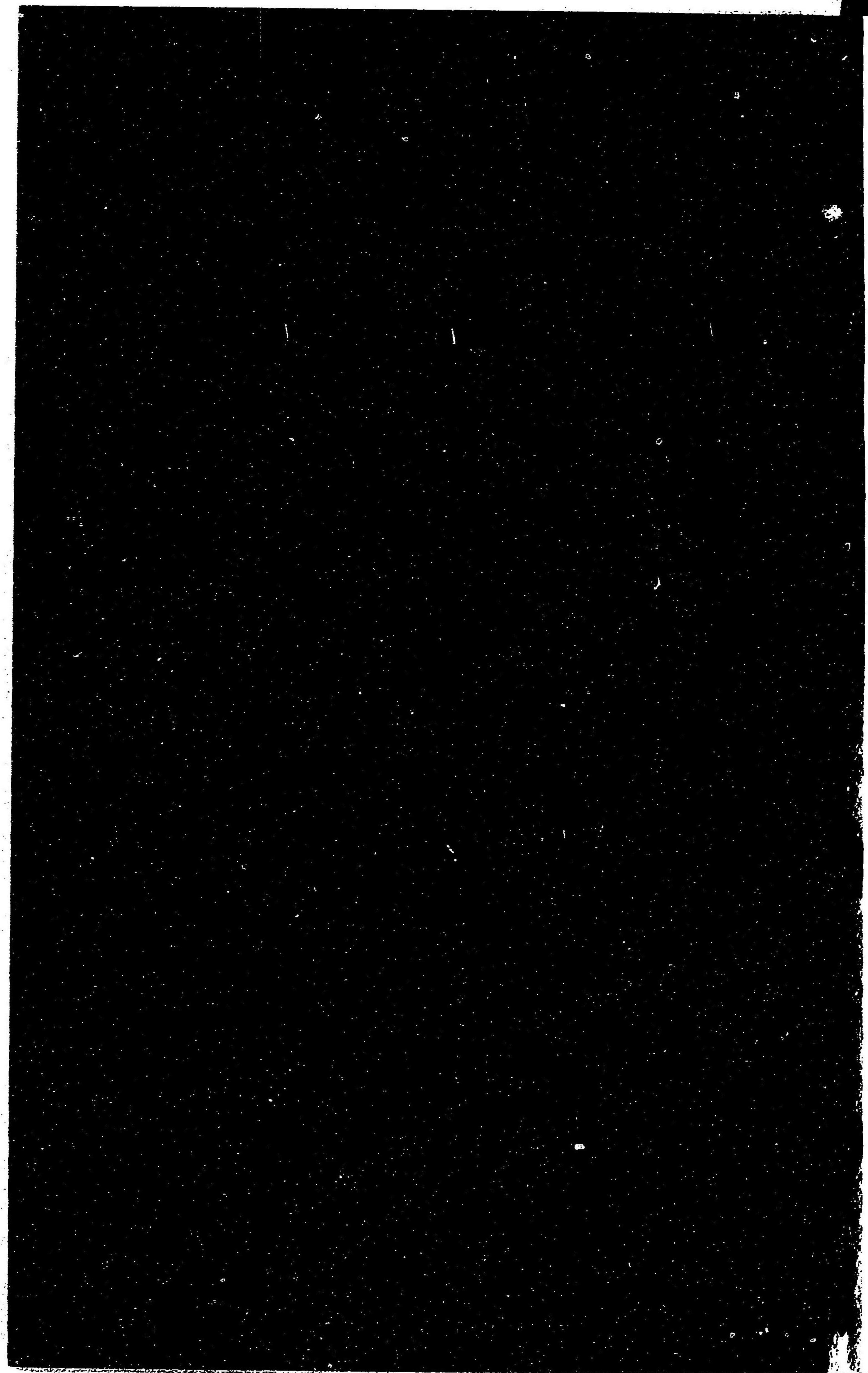
一新彩館ノ肖像絹画類ハ一種特有ノ活画ト称シテ斬新妙巧ナルコト真ニ活ケルガ如シ

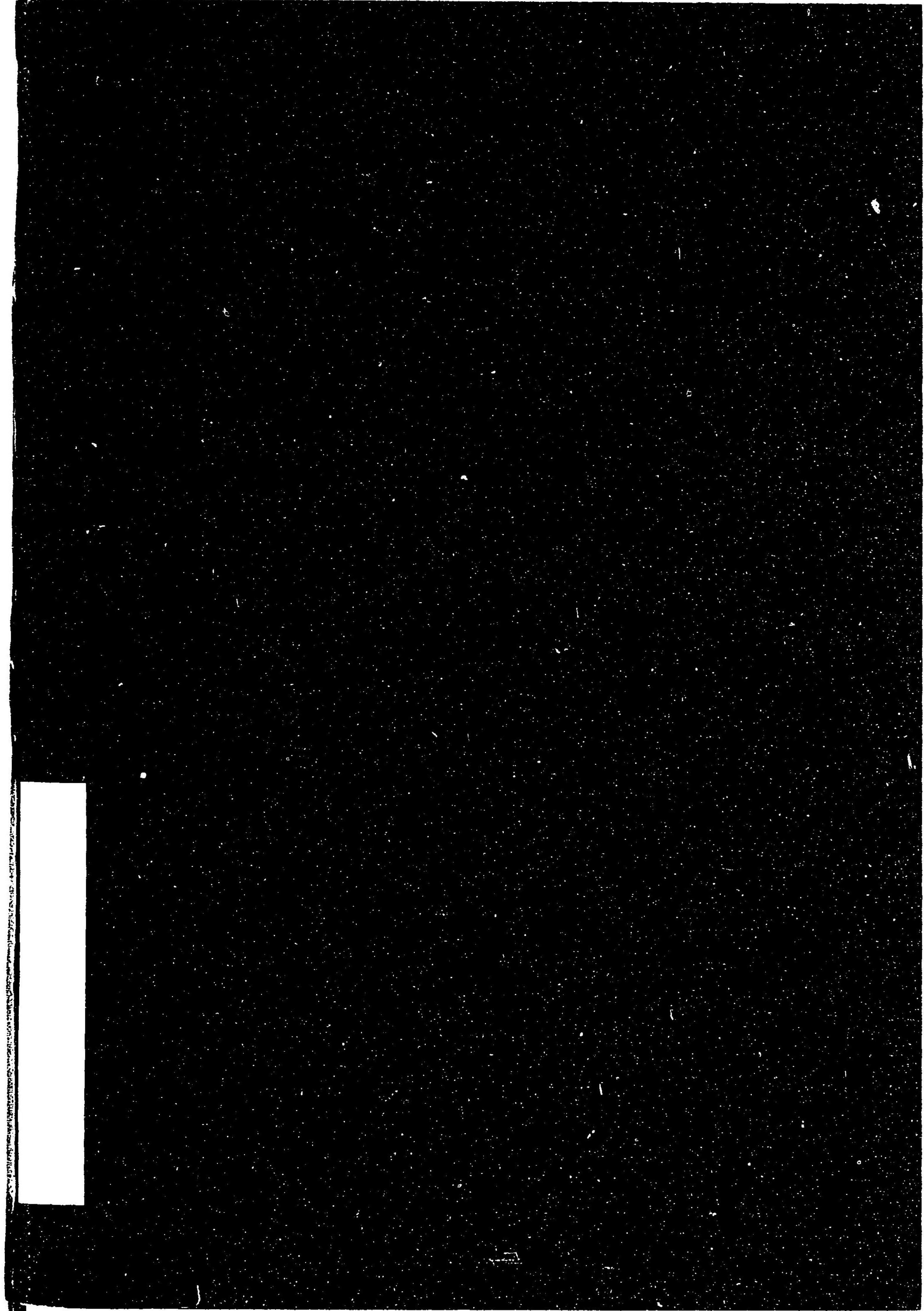
右陸續御注文アリテコトヲ乞フ

東京市京橋區中橋和泉町四番地

新彩館印刷部







[Redacted]

特17

152

実験
応用 相場博士

国立国会図書館

301053-000-8.

特17-152

相場博士

榎本 賢次郎 / 著

M28.10

BDL-0002

